

平成 27 年第 8 回朝日町議会定例会会議録（第 2 号）

平成 27 年 12 月 10 日（木曜日）午前 10 時 00 分開議

議事日程（第 2 号）

第 1 代表・一般質問

本日の会議に付した事件

日程第 1 代表・一般質問

出席議員（10 人）

1 番	清 水 眞 人 君
2 番	荒 尾 勇 二 君
3 番	道 用 昭 雄 君
4 番	小 川 慶 二 君
5 番	大 井 光 男 君
6 番	西 岡 良 則 君
7 番	加 藤 好 進 君
8 番	長 崎 智 子 君
9 番	水 野 仁 士 君
10 番	大 森 憲 平 君

欠席議員（0 人）

説明のため出席した者

町	長	笹 原 靖 直 君
副 町	長	金 島 光 一 君
教 育	長	永 井 孝 之 君
まちづくり推進統括監		小 川 雅 幸 君
企画政策室長		小 杉 嘉 博 君

総務課長	山崎 富士夫 君
財務課長	大村 浩 君
商工観光課長	住吉 雅人 君
住民・子ども課長	寺崎 昭彦 君
健康課長	清水 明夫 君
農林水産課長	坂口 弘文 君
建設課長	竹谷 俊範 君
会計管理者	谷口 宗次 君
あさひ総合病院事務部長	道用 慎一 君
朝日消防署長	谷口 優 君
教育委員会事務局長	宇田 速雄 君

職務のため出席した事務局職員

事務局長	中島 優一
主任	平木 敦

(午前10時00分)

開議の宣告

議長(水野仁士君) ただいまの出席議員数は10人で、定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程の報告

議長(水野仁士君) 本日の日程は、町政に対する代表・一般質問であります。

町政一般に対する質問

議長(水野仁士君) これより、町政に対する代表質問を行います。

質問はお手元に配付してあります文書表の順で行います。

なお、ご承知のことではありますが、最初の質問及び答弁は登壇して行い、再質問及び再質問に対する答弁は自席でお願いいたします。

最初に、一步会代表、道用昭雄君。

〔3番 道用昭雄君 登壇〕

3番(道用昭雄君) おはようございます。

第8回定例議会におきまして、議長より質問の許可を得ましたので、提出済みの3件・10要旨について順次質問をさせていただきたいと思っております。

その前に、朝早くから大変、傍聴していただきまして、本当に感謝しております。よろしく申し上げます。

1件目であります。私がずっと問題を追及してまいりました泊高校の存続運動の現状と今後についてであります。

要旨(1)につきましては、署名の様子につきましては、8月下旬から行われたわけですが、自治振興会を初め、高校の後援会、泊高校のOB・OG会、東京朝日会、関西朝日会並びに企業各位、町外の方々、多くの町民の方々の積極的な活動により、非常に多くの署名が集まったというふうに聞いております。朝日町挙げての働きかけが一定の成果を上げたと思いますが、町外の方々にも署名をお願いしたわけですが、どのような反応であったでしょうか、それも含めてお聞かせ願いたいと思っております。

それから、これからいろいろな問題として署名活動が行われると思いますが、そういうときの教訓となったようなことがありましたら、お知らせ願えればと思います。

要旨(2)についてお尋ねします。

泊高校存続運動が、将来を考える町民会議のもとで非常に順調に進んできたように思いますが、この署名を機会に、この後どのように町民会議が進んでいくのかお尋ねしたいと、組織とか構成とか財政的な問題としてお尋ねをしていきたいと思えます。町当局と町民会議のかかわりも含めて、これからの方向性を示していただければと思えます。

署名活動の多くは、町民の方々を中心とした運動のたまものであったというふうに思えます。とすれば、それに応える意味で、町当局は今後、この存続運動を支援し、泊高等学校が存続するためには、どのように人的・財政的な支援をされていくのか具体的にお答え願いたいと思えます。

【答弁：町長】

要旨(3)についてであります。泊高等学校を特徴のある高校として位置づけるということでは、観光ビジネスコース、部活動のアーチェリーということが盛んに言われるわけですが、これだけでは訴え方が非常に弱いのではなかろうかというふうに思えます。

何度も私は申し上げてまいりましたが、この地域にあっては、看護、介護、それから保育の不足しているところでありますので、全国的にもそうではありますが、新たにそういうコース・科を設置するという要請も続けなければ、泊高等学校の存続もなかなか日の目を見ないのではなかろうかというふうに思えます。そういう朝日町に適応した学校づくり、そして万が一、これから存続のためにどうするのかということが非常に重要になってくると思いますが、いかがでしょうか。

それから、町民会議の当局も含めてですが、大変存続運動で一生懸命になっておりますが、じゃ泊高等学校の中では一体どうなっているんだろうかと。観光ビジネスコースはどんな授業をして、どのような活動をして、そしてどういう進路を彼ら彼女らはとっているのでありましようかと。等々を伺いながら、行政が努力している部分と高校が努力している内容を相互に理解する中で、さらに存続運動を高めることができるのではないのでしょうか。そういう点についてお伺いいたします。

要旨4件目ですが、実は異なる方向から高等学校の存続を訴えていけないかなということをおもっております。

というのは、ご存じのように、泊高等学校の生徒たちは、360のうちの六十数名しか地元の高校生はいません。そうすると、外から入ってくる生徒たちが非常に多いわけでありまして。

泊駅での通勤や通学に使う人数はどれくらいで、泊高校の生徒はどれくらいあいの風鉄道を
利用しているものでありましょうか。そして、1年間を通じて、あいの風鉄道へどれくらい
財政的に寄与しているものでありましょうか。わかりましたら、教えていただければと思い
ます。

あいの風鉄道の課長さん何人かと話をしたのですが、乗客数は大体1日で、富山市では4
万3,000人だと言いまして、通学の生徒は1万7,000で40%になるそうであります。ですから、
高校が存続するということは、あいの風鉄道にとっても財政的に非常に助かるんだというこ
とを言うておられました。

そういうようなところへの働きかけによっても県へ訴えるということが1つの方法ではな
かろうかと思えます。

【答弁：副町長】

.....

続いて、2件目に入ります。図書館と美術館の管理についてであります。

要旨(1)ですが、学校教育では、図書館、新しくなりまして利用も大変増えているようですが、その利用、義務教育のところでは学校はどのように利用しておられ、美術館についても、ちょっと距離は離れているわけですが、学校教育にどのように取り入れられ、今後さらにどのような利用をされる予定があるのか、ありましたら教えてください。

要旨2件目に入ります。

図書館の効果的な利用とさらなる内容の充実をさせていくためには、図書館の運営委員会というものが必要であると思われまます。その構成要素を、構成人員になりますか、それをどのように選ばれたらいいのか、何人ぐらい選ばれたらいいのかというようなことも、お考えがあればお尋ねをいたします。また、財政負担はそのために幾らぐらい必要と考えられているのでありましようか、お願いいたします。

3番目ですが、美術館の管理についてであります。

美術館の作品は町民の財産であります。そして、庁舎や病院、学校、その他の施設にやはり同じく町民の財産であります美術品が飾ってあったり、かけてあったりで、我々の心をゆとりあるものにしてくれる、大変大切な働きであります。

その管理はどこにあるのか、どういうふうになっているのであろうかということをお尋ねしたい。願わくは、町民の財産ですから、1からあるもの全てが目録に載っておりまして、私たちが、見せてくださいと言われれば、いつでも見せられるようにするのが美術館の、そして町では管財になるのでしょうか、財務課になるのでしょうか、教育委員会の管轄でしょうけれども、財政的には財務課が持つておるわけですから、そこにも目録が必要になってくるのではなからうかというふうに思いますが、いかがでありましようか。

その中で、そういうものを管理してあるのかないのかということなのですが、ないとすれば、これから何年かかっても、何年という大変長い時期を言うようですけれども、できるだけ早くにそのデータベース化をして、さらに本にでも、1冊の物の目録にでもなれば大変よろしいのではなからうかと思いますが、その件についてお尋ねいたします。

【答弁：教育委員会事務局長】

.....

次、3件目に入ります。

要旨(1)であります。総合戦略、それから第5次総合計画での人口減は大変詳しく出ておりましたので、それはよくわかるのですが、ただこの後町はどのような形態を経て変化していくのであろうか、じゃどういう町で私たちはこの町を活気あるまちづくりにするのかという形がどうも見えてこないであります。その人口減を、どれくらいの数で朝日町をこのようにしていきたいという考え方があるのかどうかということをお尋ねしたいと思います。

まず、1年に大体200人ずつが減少していますが、高齢化ですから、もっと割合がこれからは大きくなっていくと思われま。その現状は、現在どうなっているんだろうかということからお尋ねをいたします。

最初に、流入、流出、自然減の割合はどうなっているのでしょうか、どうなっていくのでありましようかであります。

朝日町では、どのあたりが一番減少が激しくて、どのあたりが変化していない、また増加している場所がないのでありましようか。里山、里海、街なか等々のところではどうなっているのかを簡単にお話し願えればと思います。

3番目ですが、あの総合戦略の中でありました4つの柱ですね、仕事をつくり出すということ、1つ。2つ目、町に人を呼び込むということ。3番、結婚・出産・子育ての支援ということ。4番、時代に合ったまちづくりが総合戦略の柱であり、総合計画の中心になっていくと思います。これは考えてみますと、いつまでも町民が安心・安全で暮らしていけるふるさとづくりだと思っておりますが、いかがでありますか。

4つの方針については、全く私も同感であります。それを具体的にどう実現するのかということでありまして、その中で朝日町が、こういう中でそういうことをやっていくんだという、その全体像が少し見えればなと思います。考えてみますと、例えば地域地域にはそれぞれの特徴がありますので、それを伸ばすような支援をして各地域の発展を願うと、地域の消滅を防いでいくということも1つの方法だと思われま。すが、いかがでしょうか。

【答弁：企画政策室長】

要旨(2)であります。富山県一の高齢化率、聞きましたら40%ぐらいになるというふうなことを言われるわけですが、朝日町としては、それを、現実のことですから現実として受けとめて、どうすれば高齢者が住みやすいまちづくりができるのかということを考えてみたいと思うのですが、非常に唐突な言い方ではありますが、これらは医療、保健は予防ですね、それから介護・福祉について、1つの固まりとして捉えることができないかと。在宅介護をも取り入れていくという理想的な形をした一種の企業体というふうな捉え方は無理なものでしょうかということです。

以前にそういうことを考えられた町長もおられるというふうにも聞いていますが、そういうふうな方向づけはどのようにすればいいんだろうか、考えていってもいいのじゃなかろうかと思います。

その過程が大変なのですが、医師とか看護師とか介護福祉士が増加していけば、人口増加ということが当然起こってきますし、経済の発展は間違いないというふうに考えられますが、どうなのでしょう。

【答弁：健康課長】

要旨3番に入ります。

何もしなければ人口はますます減少していきまますし、人が集まっておるところに集中するわけでありまして、朝日町がだんだん小さな町になると思われまますが、国は、東京中心ではなく地方への分散を言っているのに、真逆の方向に進むのではないのでしょうか。

初め申し上げましたが、地域ごとに文教地域とか病院・福祉地域とか農業地域とか商業地域とか工業地域とか居住地域等々のように、それぞれの拠点を持ったまちづくり。そうすれば、従来のように朝日町を広々としたゆとりのあるまちづくりを目指していけば、そのように縮小する必要はないのではなかろうかというふうに思いますが、絵に描いた餅のように思われるかもしれませんが、1つの方向としてのまちづくりを言いましたので、当局には当局の具体的な全体像みたいなものがあると思いますが、そのことを私の意見と対応しながら伺えれば幸いかと思います。

【答弁：企画政策室長】

以上で質問を終わります。

ありがとうございました。

【以上、道用議員の代表質問に対する町長答弁】

.....

議長（水野仁士君） ただいまの一步会代表、道用昭雄君の質問に対する答弁を求めます。
笹原町長。

〔町長 笹原靖直君 登壇〕

町長（笹原靖直君） 皆さん、おはようございます。

多くの自治振興会の皆様を初め、傍聴、本当に連日ありがとうございます。

それでは、私のほうから、一步会代表質問であります道用昭雄議員の件名1、泊高校存続運動の現状と今後についての要旨(1)、(2)についてお答えさせていただきます。

要旨(1)の署名の概数とその内容についてであります。

本年9月から「泊高校の将来を考える町民会議」が主体となって、泊高校の存続を求める署名活動を実施してまいりました。泊高校存続が朝日町民の総意となるよう、各自治振興会を窓口にも全世帯へ署名の協力を求めたところ、各世帯から、町外在住の親族等も含め1万3,424名のご協力をいただいたところであります。また、泊高校同窓会からは、主に町外・県外の8,638名の方々からいただいております。さらに、新川地域の自治体職員や泊高校の主な就職先である企業からは4,898名の方から、その他合わせまして総数2万9,376名の方々から賛同をいただいたところであります。

なお、地域別の署名数については、10センチ幅のファイルで6冊分という膨大な枚数であるため、詳細な分析はいたしておりません。

町外の方々からもご協力いただけたのは、泊高校の存続は朝日町だけの問題ではなく、ご存じのとおり、新川地域にある6つの県立高校においては、各校の特色や生徒の進路希望に応じて多くの生徒が居住する市町を越えて通学しており、多様な生徒の学びの場の確保という面から、新川地域の子どもたち全体にも影響を及ぼす問題であるということをご理解いただいたたまものであり、この点についても、県へ強く訴えかけてまいりたいと考えております。

次に、要旨(2)の町民会議の今後と町の支援についてであります。

町民会議は、PTAや同窓会などの学校関係、自治振興会、商工会などのまちづくり団体などからなる町民主導の組織であります。ただ、残念ながら泊高校の当局が参画できていないため、今後泊高校の魅力づくりや活性化といったことを進めていく上で、現在の町民会議を発展的に組織がえしていただければと考えております。

また、朝日町として泊高校と泊高校生を支援していく具体的な取り組みが必要であると考えており、これまでも泊高校在校生の全国大会等への派遣に対する奨励金、泊高校体育後援

会への助成、また今年度は新たに日本体育大学アーチェリー部の招へいや備品購入等について支援を行ったところであります。

今後、町民会議で提案されたご意見等を踏まえ、さらなる財政的な支援、組織的なバックアップ体制について、来年度に向けて検討してまいりたいと考えております。

[【質問：件名1に戻る】](#)

[【各担当者の答弁へ移る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 次に、件名1、泊高校存続運動の現状と今後についての要旨(3)、(4)を、金島副町長。

〔副町長 金島光一君 登壇〕

副町長(金島光一君) 道用議員の件名1、泊高校存続運動の現状と今後についての要旨(3)、(4)についてお答えいたします。

まず、要旨(3)、特徴ある魅力ある高校とはについてであります。

11月10日に開催しました第5回町民会議においては、観光ビジネスコースの充実、中高連携交流事業の強化、部活動の活性化、キャリア教育と進学に対する保障が重要であるとの意見が多く出されたところであります。新たな特色をつけ加えるのではなく、ないものねだりより今ある特色を生かす、さらに充実させる、そして発信していくことが重要とのご意見であると受けとめております。

町民会議からいただいたご意見をもとに、先般、泊高校の校長、両教頭と意見交換をさせていただき、現在泊高校において、来年度以降の町からの支援内容について検討いただいているところであります。

今後とも、泊高校と連携を密にし、泊高校の魅力化、活性化に向けた取り組みを町と高校が一体となって進めてまいりたいと考えております。

次に、要旨(4)、あいの風とやま鉄道とのかかわりについてであります。

ことし6月にあいの風とやま鉄道が実施した利用状況調査結果によると、泊駅の1日当たりの乗車人員は665人と推計されております。

泊高校生のうち鉄道利用者の人数について泊高校で調べましたところ、全学年では239名であり、泊駅利用者の35.9%を占めていることとなります。また、半年定期で換算しますと、年間の定期代金は総額で1,570万円余りになるとのことです。

なお、富山駅での乗車人員は、先ほどのあいの風とやま鉄道の調査によりますと、1日当たり1万2,122名であります。通勤通学の別については発表されておられません。

ご存じのとおり、あいの風とやま鉄道は、多くの県民の日常生活の足としての役割を担っておりますが、生産年齢人口や学生数の減少を踏まえると、通勤通学による利用者数の減が見込まれ、経営見通しは大変厳しいものがあります。

そのため、県、市町村、民間企業からの出資による経営安定基金からの支援により収支の均衡を図ろうとされているところでありますが、議員ご指摘のような、通学利用者をからめた県立高校の存続について、あいの風とやま鉄道自体が県へ要請することは、なかなか難し

いのではないかと考えております。

以上でございます。

[【質問：件名1に戻る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 次に、件名2、図書館管理と美術館の管理についての要旨(1)から要旨(3)までを、宇田教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 宇田速雄君 登壇〕

教育委員会事務局長（宇田速雄君） 一步会代表質問、道用昭雄議員の件名2、図書館管理と美術館の管理について、要旨(1)、学校教育と図書館・美術館の利用とその実情について、要旨(2)、図書館運営委員会の設立と委員の構成と財源処置について、要旨(3)、美術品の管理と美術館、財務課の関係について、また美術品目録はどうなっているのかについてお答えいたします。

最初に、図書館及び美術館の利用状況について申し上げます。

朝日町図書館は、移転オープンいたしました昨年11月から、ちょうど1年が経過いたしました。「以前の図書館より使いやすくなった」「明るくなった」などの感想をいただくこともあり、職員ともども喜んでいるところであります。

比較いたしますと、入館者数は約7倍、貸出冊数は約2倍となっております。本年4月から11月までの延べ入館者数は5万7,074人、開館日1日当たりの入館者数は273人ですが、年齢別等の計数把握はしておりません。かわりに、図書の利用統計によりますと、本年4月から11月までの貸出利用者1万3,153人のうち、幼児、小学生は2,166人で全体の16.5%、中高生が603人で全体の4.6%となっているところです。

なお、学校教育での図書館活用につきましては、さみさと小学校の1・2年生が生活の授業の学校周辺探検として、また6年生が総合の授業で図書館を見学いたしております。

次に、美術館につきましては、今年度これまで3回の企画展示を行っており、延べ入館者数は2,818人、うち高校生以下の鑑賞者は805人、約29%となっております。

なお、学校の授業での美術館の活用は今のところございませんが、朝日中学校では全校生徒が各自、美術館を利用してレポートを提出するよう、夏休みの宿題が出されております。

なお、美術館では、保育所の年中組以上の幼児、小学校の児童及び今年度からは中学校の生徒にも「こどもパスポート」を配布しており、子どもたちの美術鑑賞を促進する取り組みを行っております。これは、全ての展覧会を無料で鑑賞でき、全ての展覧会を見学することによってミュージアム博士認定証を授与するというもので、現在のところ、こどもパスポートを利用しての鑑賞者は223人となっております。

また、今年度この後予定しております「U-18 ふるさと美術館に年賀状を送ろう！ 展」は、小中高等学校に出品を依頼して実施いたします。この企画は平成25年度から実施してお

りますが、昨年度を例にとりますと、790人の入館者に対し、高校生以下の鑑賞者は276人、35%でありました。

今後とも、町民が幼少期から美術品を鑑賞できる機会をつくってまいりたいと考えております。

次に、要旨(2)、図書館運営委員会の設立と委員の構成と財源処置についてお答えいたします。

図書館協議会の設置について、図書館法は「公立図書館に図書館協議会を設置することができる」と規定しております。図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関として、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者といった基準を、これは文部科学省の基準なのですけれども、それを参酌して教育委員会が委員を任命することになります。

県内にある公立図書館16館のうち、法で定めます条例設置、それ以外のものも含めて、図書館協議会ないしそれに準ずる組織を運営している公立図書館は11館ありますが、当町は未設置の状況にあります。

新図書館となって1年、建物の構造、設備などの機能面や雰囲気、運営状況についても利用者や関係者の認識が備わってきているものと思います。今後の図書館運営を、多くの町民に親しまれ、信頼される施設として有効なものとしていく上でも、図書館協議会の設置に向けて検討してまいりたいと考えております。

なお、必要な予算といいますのは、委員に就任していただいた方への報酬、そういったものになるかと思えます。

次に、要旨(3)、美術品の管理と美術館、財務課の関係について、また美術品目録はどうなっているのかについてお答えいたします。

町が所有しております美術品は、一般的な備品管理と同様、従来からそれぞれの所管課において管理しており、各所管課が管理する施設に展示、保管してある美術品以外は、美術館で保管しております。

おのずと美術館には多くの美術品が収蔵されておまして、現在のところ、1,089点を数えますが、美術館では美術品ごとに基本カードを作成し、美術品台帳として管理するための台帳整備を行っているところです。

未整備の物もありますので、今後も順次整備を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

[【質問：件名2に戻る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 次に、件名3、第5次総合計画と総合戦略の関係についての要旨(1)及び(3)を、小杉企画政策室長。

〔企画政策室長 小杉嘉博君 登壇〕

企画政策室長（小杉嘉博君） それでは、道用昭雄議員の件名3、要旨(1)、人口減により5～10年後の朝日町の人口構成はどのように変化するか、要旨(3)、町の将来像はコンパクトな町にならないための対応をどのように考えるのかというご質問にお答えいたします。

朝日町では、その時代ごとに社会の潮流や町民の志向を踏まえながら、4次にわたり総合計画を策定してまいりました。総合計画は、町の将来あるべき姿と進むべき方向の基本指針となる重要な計画であります。町の特性や課題、これまでの指標検証などを踏まえまして、実効性、持続性のある町の将来像、施策の着実な推進を図るため、現在、来年度、平成28年度からスタートする第5次朝日町総合計画の策定作業を進めているところであります。

また、朝日町では、平成27年度から平成31年度までの5年間を計画期間といたします「朝日町総合戦略」を去る10月下旬に策定いたしました。この総合戦略は、朝日町の地域特性や強みを生かしながら、人口減少対策に重点を置いた計画であります。

ご質問の、朝日町総合戦略及び第5次朝日町総合計画における5年後、10年後の人口推計・展望、いわゆる人口ビジョンについてであります。国立社会保障・人口問題研究所、社人研と申しておりますけれども、この推計では、平成32年(2020年)に朝日町の人口が1万1,540人、平成37年(2025年)には1万475人という推計がなされております。

当町では、この総合戦略及び総合計画を進め、人口減少対策を講じていく上で、合計特殊出生率を、国が長期的な見通しで仮定値といたしました平成42年、10年後の2030年に出生率1.8、平成52年、2040年、25年後ですが、そこに2.07人と段階的に上昇すると仮定するとともに、純移動率を若者や子育て世代を中心に転出超過の抑制が進むと仮定した推計を行い、その結果、5年後の平成32年(2020年)には約1万2,000人、10年後の平成37年(2025年)には約1万1,500人ということで、先ほど言いました社人研の推計を上回る人口を推計したところでございます。

この人口推計の内訳に係る出生・死亡、社会増減について申し上げますと、平成28年から平成32年までの5年間では、出生・死亡による自然増減をマイナス750人、転入・転出による社会増減をマイナス72人と推計をしております。また、平成33年から平成37年までの5年間では、自然増減をマイナス778人、社会増減をマイナス54人と推計をしているところであります。

続きまして、道用議員からの、朝日町の人口減少の地区ごとの状況についてというご質問にお答えいたしますが、先般、5年ぶりに平成27年度の国勢調査を実施したところであります。その結果、今、速報値が出ております。若干今後変わるかもしれませんが、前回と比較いたしますと、平成22年度、世帯数が4,718世帯、人口が1万3,651人でした。5年経過をいたしまして、今回実施した速報値では、世帯数が4,516世帯、人口が1万2,236人となっております。世帯数におきましてはマイナスの4.28%、人口におきましては10.37%の減ということになっております。

地区ごとに申し上げますと、朝日町10地区全部で人口減少が見られるという状況になっております。

先ほど述べました今後の人口推計についてでございますけれども、地区ごとの推計というものはなかなかできませんので、人口推計については町全体を捉えたものでございますので、各集落による推計というものは行わずに先ほどの推計をしたものでございます。

続きまして、総合戦略における4つの基本目標を推進していくための施策や取り組み内容について申し上げます。

基本目標1の「町に仕事をつくる、町の価値を生み出す」では、地域ブランド構築事業、企業誘致体制の強化並びに起業に対する支援の充実といったものに取り組んでまいります。

基本目標2の「町への人の流れをつくる、町に人を呼び込む」では、移住関連情報の充実、お試し移住体験の推進、U・I・Jターン採用の企業に対する助成などを計画しているところでございます。

基本目標3の「若者の結婚・出産・子育てを応援する」では、若者の出会い・交流の支援を図るとともに、医療費助成事業、ふるさと教育推進事業等も実施してまいります。

最後、4つ目の基本目標でございますが、「時代に合った地域づくりを進める」では、買い物支援事業やコミュニティ活動を担う人材の育成、ふるさと応援団人材バンクの開設などにも取り組んでまいります。

[【質問：件名3に戻る】](#)

続きまして、要旨(3)の、町の将来像がコンパクトな町にならないように、文教、福祉、商業、農業、工業、居住区域等に分けたゾーニングによる地区の発展方法のご提案についてお答えをいたします。

当町におきましては、平成11年3月に朝日町都市計画マスタープランを作成いたしました。が、策定から16年余りを経過しておりまして、社会経済状況等が大きく変化していることから、現在見直し作業をしているところであります。

このマスタープランは、町全体や身近な地域を、将来どのような町にすべきかを考え、具体性のある将来ビジョンを確立し、地区別のあるべき「まち」の姿を定めたまちづくりの総合的な計画であります。土地利用や都市施設整備、都市景観・環境等について、おおむね20年後を展望した上で、具体的な都市施設の整備等について、今後10年間のまちづくりの基本的な方向を示すものでございます。

当町における土地利用状況につきましては、行政区域総面積、2万2,741ヘクタールございまして、そのうちの都市計画区域面積、5,453ヘクタール、全体の約24%となっております。この都市計画区域のうち、市街部の土地利用計画を定めた用途地域指定区域につきましては約230ヘクタールとなっております。

このマスタープランによります町全体の土地利用の方針といたしましては、おおむね中心市街地ゾーン、市街地拡張ゾーン、集落・農地ゾーン、山間ゾーン、海岸ゾーン、河川ゾーンということでこれまで取り組んできたところでございます。このうちの中心市街地のゾーン、いわゆる用途地域でございますけれども、住宅系の用地、商業系の用地、工業系の用地というふうに区分分けがなされております。

このように、当町の土地利用計画におきましては、土地利用目的を定め、特に市街部において用途区域を指定して、無秩序なまちづくりや景観形成とならないよう努めてきているところでございます。

また、これまで、各地区の自治振興会の皆さんにより、「地域みずからが考え、みずからが実行し、みずからが責任を持つ」、また「自分の地域は自分で守る」という住民の自主性、主体性による地域特性に応じた各種施策が推進されてきているところであります。

町といたしましては、これまでの取り組みを踏まえまして、総合戦略に掲げた施策を効果的に推進し、実現に結びつけていきたいと考えております。例えば、総合戦略にあります農林漁業の活性化や観光の基盤産業化、また産業の集積と新産業の展開、中心市街地活性化等のハード事業につきましては、各地域の特性、自然環境等に応じた場所での実施、また若者

の結婚・出産・子育て環境の充実、地域生活サービスの向上、地域コミュニティーの活性化等のソフト事業につきましては、朝日町のどこに住んでいてもこの制度の恩恵を得られるような仕組みづくりに努めていかなければならないと考えております。

この実施のためには、議会、そして町民の皆さんを初めとし、自治振興会等の関係組織の皆さん、また民間の事業者の皆さんなど、幅広い参加とそれぞれの方の主体的な取り組みがなくてはなりません。朝日町にかかわる者、全ての方々がしっかりとスクラムを組みまして「夢と希望が持てるまちづくり」を目指し、前進してまいりたいと考えております。

以上でございます。

[【質問：件名3に戻る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 同じく件名3、第5次総合計画と総合戦略の関係についての要旨(2)を、清水健康課長。

〔健康課長 清水明夫君 登壇〕

健康課長（清水明夫君） それでは、件名3、要旨(2)、高齢化人口の増加を踏まえて、看護、介護の町として考えていくことはできないのかについて、事前通告の内容に基づきお答えをさせていただきます。

当町の65歳以上の高齢者数は、ことしの12月1日現在で5,108人、高齢化率は39.85%となり、40%超えが目前に迫っております。高齢化率は、高齢者数を人口で除した割合であります。その分母となります人口の減少に伴い、高齢化率は年々上昇する一方、高齢者数、65歳以上の人口は、平成28年度から29年度にかけてピークを迎え、その後減少傾向に転じ、10年後の平成37年度には約4,600人と、現在よりも500人程度少なくなるものと推計しております。

高齢者数は、これ以後も減少を続けるものと推計をしており、こうした状況、推移を踏まえて、今後の取り組みを考えていく必要があるものと考えております。

ご質問の、介護の施設や病院等を含めた企業体、町の施設として考えることができないかとのことにつきましては、ハードルの高い選択肢の1つであろうかと思いますが、相手のある話でありますので、この場で発言できかねるものであります。

また、地域包括ケアを考えた看護・介護の施設にということではありますが、有機会に対しましては、設立当初からこれまでの間、財政面を含め全面的なバックアップをしてきているところであり、町とは緊密な関係、そして連携が図られております。

議員がお考えの地域包括ケアは、既に官民で構築されているものと思っておりますし、経営手法の面においては、法人による施設経営は、民間ならではの柔軟性のある自由度の高い運営、そして意思決定についても適時行えるメリットなどをしんしゃくした場合、現体制の強化が時宜を得たものと思っております。

以上であります。

【質問：件名3に戻る】

.....

議長（水野仁士君） 道用議員、ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） まず、高等学校のことからちょっとお話をさせていただきたいと思いますが、財源的には、何と申しますか、いろいろと一生懸命になっておられることはよくわかるのですが、弓道の屋根が幾らか要るのでなかなかならないとか、ちっちゃなことである心配をされておるわけですが、全体として教育委員会では高等学校の支援が250万というふうな話でありましたが、部活動などでバスを動かしたりすることの義務制との垣根を取っ払って支援をしていくというふうな発想が出てこないものなのかということ。とすれば、私は、高校支援と申しますか、そういう新しい会議をつくられて、その中へ予算を、私ならば1,000万ほど予算を用意してくれと言いたいところですが、そこまでは無理かもしれませんが、初年度は500万ぐらいの財源で自由に動けるような、そして高校を支援できるような体制にならないかということをお尋ねいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

金島副町長。

副町長（金島光一君） 泊高校に対する財政的な支援をもっと、できれば500万程度というお話でございました。

現在、泊高校体育後援会というのが組織されておりまして、主に大会への遠征であるとかといったものに対する支援内容になっております。この体育後援会に対する助成をもう少し拡大することで、例えば文化部等々において何か使えるような形のものにならないかなというふうな思いは持っております。

ただ、どれだけの財政支援が適当なのかというのは、これはちょっと、今現在泊高校におかれまして町からの支援といった点でどういったご希望があるのかというのを投げかけているところですが、それを踏まえて支援内容と支援の規模といったものについて来年度予算要求に向けて検討してまいりたいというふうに思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） 今ほどおっしゃいましたように、いろいろと細かく、部分部分に支援しておられるわけですから、できれば、町民会議を新しく構成したいというような町長の話もありましたし、そういう中に、町が支援していくという形をとられるわけですから、町中心、町が具体的に金を出すというのではなくて、その会議にお金を渡して、その会議が支援

したものを全部ひっくるめたもので財政を、町が500万ほど出して、自由に使って活性化してくれと言われたほうが、私は、使いやすいんじゃないかなろうかということを思いますので、そのあたりはいかがなものでしょうか。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

金島副町長。

副町長（金島光一君） 今ほど申し上げましたが、確かに泊高校側で使い勝手のいいものがよいのかなというふうには思っております。そういう意味で、体育後援会は、ある意味、部活動の体育の部分に特化した後援組織でございますので、それを泊高校全体の後援組織といったものに広がらないのかなと。そうすれば、そこに対して町が助成金を出すことで、泊高校側でいろんな使い道があると思いますので、そういう意味で使い勝手のいい支援にしたいというふうに思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） 大変前向きな答弁で、ありがとうございます。

といいますのは、私たちは、先ほど申しましたように、泊高校の支援といいます、泊高校が観光ビジネスコースだと。「じゃ、観光ビジネスコース、何してんの？」と。カリキュラム表を見ましても、2年生で2時間、3年生で2時間が観光ビジネスコースの特殊な授業なのです。そのあとは、みんな一緒なのです。そうしたら、「じゃ子どもたちは、何を、どの方向へ進学するの？」というようなこと。実態は、私らはよく知らないわけですから、お互いにその、今町はこういうふうにして一生懸命になってお金を、使い勝手なような、そういう会をつくって頑張るよということ、それから高等学校は、私らはこうやっておるんだというようなことがなかなか聞こえてこない。こっちが一生懸命になっておるのに聞こえてこないというようなことでは、何のために支援しておるのかということになるやもと思しますので、そういうあたりを私は、できれば、こういう突飛なことを言うようですが、全員協議会などで、校長などが、管理者が来て、今こういうことをやっているんだが、ぜひ知っておってほしいというようなことの相互理解を深める中でその会議がますます発展していくんじゃないかなというふうな思いがするのですが、いかがでしょうか。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

金島副町長。

副町長（金島光一君） 泊高校の取り組みがあまり見えない、見えてこないという趣旨だ

と思っております。

町民会議を進めていく中で、今後の泊高校の魅力化、活性化に向けた取り組みという中で、泊高校自体が取り組む内容といったものについてもご検討いただきました。

私は、かなり前向きな、積極的な取り組みを泊高校側から提案していただいたというふうに思っています。その実際の取り組みを、やっぱり町民の方々に今度は発信する努力といったものも当然必要だと思っております。

朝日町全体で泊高校生を支援していくという機運を盛り上げるには、やはり泊高校自体の取り組みが皆さんにわかっていただけるというのが重要なポイントだというふうに思っておりますので、町の広報の活用等も含めまして、機会を捉えて泊高校の取り組みについて町民の皆様へ発信してまいりたいというふうに思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） ありがとうございます。

今ほどおっしゃいましたように、もう少し宣伝が行き届いておればというふうな思いは非常に強いわけで、広報などにこのごろ大変よく載せていただきまして、皆さんが少しずつ見えてきたなという思いもするのですが、たまにガリ版刷りが入ってきますので、あれをできればなくしていただければというふうに思いますので、今後一層の努力をしてほしいと思います。

私、初めから申しているのですが、観光ビジネスコース、それからクラブ活動のその2点では弱いと申し上げていますのは、これだけこの地域に病院や看護の施設がありながら、それを育てる施設が、そういう学校がないということなのです。

私、最初に申したと思いますが、町長にも話をしたと思いますが、看護大学をこのへんに持ってこられないかと言うておるさなかに、11月に、知事はもう中央病院の附属のところへ看護大学を建てると。それをしかも県立大学の一部とするという話が出ました。そのとき笹原町長は、新川地区と一緒に訴えてはおるんだがということですが、その後、そういう話は全くなくて、議会でそのまま、看護大学が富山市に集中したと。

そうしたら、富山市に看護大学があって、それから看護科がいずみ高校にあるんですよ。そして、市民病院、赤十字病院に附属の看護学校があるわけです。そうしたら、地方の生徒たちがそういう看護・介護のほうへ進めるようなチャンスが非常に少なくなっていく。中央に全部集まっていく。だから、国がやっておること、知事が地方を大事にしなきゃならんと

言っておられる方向とは逆の方向に進んでおると。

私は百歩譲っても新川地区ぐらいにそういう看護大学があったってひとつも遜色はないというふうにはずっと思っていたのですが、できれば朝日町、入善町のあたりに看護大学が来てくれればというふうな思いもあるのですけれども、それははかなく消えていったと。

新川地区の弱さというのが目に見えてくるわけですから、もうちょっと強く訴えてほしい。そのためにも、この朝日町はこれだけの施設が残っておるんだから、看護科、学校がぁいているのですから、専門科2年をやりながら、そして介護、保育などが必要になってくるわけですから、そういうのをともに養成する事柄はだめなのかなということをおもうのです。養成していくことが非常に、県への訴え方も強まるんじゃないかなというふうにおもうのですが、いかがですか、再度質問いたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

金島副町長。

副町長（金島光一君） いわゆる看護師、介護士不足という社会的な要請といった面からは一理あるとは思いますが、ことしの5月に朝日中学校の生徒さん方、それと保護者の方々にアンケートをさせていただきました。その中で希望する学科、進学する学科を尋ねましたところ、総数208名中、専門学科を希望されたおひ様は58名、約28%でした。さらに、その専門学科のうち、看護あるいは福祉、58名中それぞれ5名、結局全体の2%もいかないというような子どもたちの進学希望です。加えて、今現在、県内に介護福祉士を養成する専門学校が4つありますが、そこの定数、入学定員に対する入学者数が、いわゆる充足率であります。それが、ことしは54.7%という現況があります。社会の要請としてそういった人材を育てていきたいというものと子どもたちの思いとは、ある意味、ミスマッチになっている現況があります。

とはいえ、道用議員が言うように、いろいろなものが富山市に集中しているというのは重々理解しているところでございまして、新川地域として新川地域に福祉科を設置してほしいという要請は、新川地域全体として県に要望しているところでございます。

今県立高校の見直しがおなされる中で、職業科自体、今後どうするかといったことが議論されている中で、今ここで看護なり福祉なり保育なりの学科を新設するというのは、私は大変厳しいのではないかというふうにおもっています。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） 言われるのも一理あると思うのですが、生徒たちが、もともと朝日町におる生徒は少ないわけで、希望されるのも少ない。それは当然です。ただ、泊高等学校へ来る生徒は、先ほどおっしゃったように、定期で来る人が二百三十何人も学校へ外から来ておると。そうすれば、その外から来る生徒たち、だから今ほどおっしゃったように、4施設があると言われましたが、呉東のほうには滑川にそういう関係が、専門学校が1つだけという状況なので、何で向こうにばかりあって、こっちにないのか。

呉東がいつも、私はいろんな意味で、政治、教育、いろんな面で呉東がずっと歴史の中で損ばかりしてきておると。そういう方向から見ても、東の玄関だと言われるのなら、何でもっとそういうふうなことをということで私は言っているわけで、ぜひ要請の中に入れてほしいというのは、今後の要望であります。

あまり長い時間そこにおれませんので、次のところへ移らせていただきますが、できるだけ財政的な助成をぜひ、ぜひお願いしたいということで教育の問題を終わりにして、次へ移らせていただきます。

図書館でございますが、大変利用数が増えて喜んでおられる。ただ、いろいろな経験者が図書館へ来られて、「こういうふうにしたらいんじゃないの、こういうふうにしたらいんじゃないの」という話を言われるものですから、先ほど、図書館法にありますように、図書館連絡協議会というのをつくることのできるんですよということなものですから、ぜひそれをできるだけ早くにつくってほしいということで、ここ近郷近在をちょっと見てみますと、構成人員は、先ほどちらっとおっしゃいましたが、大体10人で構成されておると思います。

よく図書館を利用される方、読書会とか学校関係、学識経験者等々を含めて10人ぐらいになるだろうと思いますが、年に1回ぐらいではなかなかいろんな意見が出てこないというふうに私は思うのであります。したがって、10人ぐらいですから、1回5,000円とすれば5万円ですね。ですから、それを3回開いたにしても20万弱でおさまるということから考えると、予算は50万以内でおさまっていくんじゃないだろうか。それが朝日町の今後の図書館の発展につながっていくように思うのですが、いかがでございましょうか。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

宇田教育委員会事務局長。

教育委員会事務局長（宇田速雄君） こちらといたしましても、早いうちに協議会を発足したいというふうには考えております。いかんせん今まだ、新年度の予算というのは3月議会に初めて提案させていただく形になるかと思っておりますので、それに向けての予算要望というこ

とで動いてまいりたいとは思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） ありがとうございます。

来年度の予算に向けて、ぜひ予算化していただければというふうに思います。

次、美術館のほうでございますが、先ほどおっしゃる中で、各所管のところでは管理をしておると言われましたが、町の財産ですので、どこかで一括したデータベースをつくって目録ができればと。あるところによりますと、10年に1篇ずつ見直しをして目録をつくっておられるところもあるわけですから、時間は少々かかりましようけれども、財産としての管理をできれば徹底してほしいと。

そういうふうなことをしておく 実はこういうこと、言うてちょっと悪いのかもしれませんが、町内の方が見せてくれて言われたことがあるそうですが、それはちょっとというふうなことになったらしいのですが、誰が来ても当然町のものでありますから見るができるようにするのが町の務めじゃなからうかと思っておりますので、今後、どこの場所にあろうとも、病院にもたくさん美術品や彫刻的な物も飾ってあります。それから、ほかの所管のところへ、小学校、中学校へ行ってもあります。それも含めた、そこで管理すると重なる、それからなくなるということがございますので、ぜひそういうことではなくて、一括で持っているところ。美術館はどうしても私は全体像を持っておる必要があるように思いますが、そのあたりはどのようにお考えでしょうかお答えください。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

宇田教育委員会事務局長。

教育委員会事務局長（宇田速雄君） 美術館が朝日町にできる以前からの従来の管理方法というのが今も踏襲されているというふうに考えております。ただ、美術品につきましては、各課で登録するとともに、財務課へ台帳として一部送付することになっておりまして、財務課のほうでは美術品台帳という形で送られてきた物をファイル化しております。

ただ、美術館が今のありさまと申しますか、なかなか財務課のほうへきちっとした物を送れる状態までまだ整理が進んでおりません。といいますのも、年間の1品、2品の移動でありましたらその場で処理はしているのですけれども、寄贈でありますとか遺贈でありますとかといいますと、数十点の物が一度に美術館のほうへ寄せられてくる。そういったケースがございます。美術館のほうでは、作者、題名、そういったものを点数としては全部、一覧表

的にはつけておるわけなのですけれども、その1品、1品に対しての台帳整理というのがまだまだ全部済んでいないという状況でございます。

現在、鋭意その整理作業は、特別展示、要は企画展の合間を見ては進めているところでございますが、もうしばらく時間はかかるのかなと思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） ありがとうございます。

再度念を押すようでございますが、全ての物を一括でどちらかで、今はできていないので、準備を進めておると言われるのですが、それはそれでよろしいので、全ての物を一括してどこかでデータベースなり、それから私とすれば目録をいずれにしろ仕上げてほしいのですが、いかがで、その方向性はどういうふうに考えられるでしょうか。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

大村財務課長。

財務課長（大村 浩君） 今議員のほうから、全ての美術品の管理をということでありましたので、全ての物ということになりますと、財務課のほうが大きな意味で、今回美術品の話になっていますけれども、町の財産、不動産関係は当然財務課で管理をしておりますし、美術品についても全部ということになれば、当然財務課のほうで管理をしていかなければならないというふうに考えています。

そういった意味で、教育委員会の美術品が少しまだきちっとされていないという部分がありますので、今財務課のほうでは、ちょっと別の話ですけれども、公共施設管理計画ということで、今年度と来年度、予算づけをしまして、いわゆる固定資産台帳を今整備します。そこで、美術品についてはそのシステムには入りませんが、それに合わせて、この美術品についても、もう1年ありますけれども、しっかり管理するような台帳整備をしてみたいと考えております。

以上です。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） 方向性が見えてきましたので、ちょっと時間がかかってもよろしいですから、完全に管理をしていただきたいと。

余談なのかもしれませんが、これを見せてくれないかと言われたときに、どんだけに入っ

たのでここにあるとかと言っても、どこにあるがなかなかかわらんようでは当然困るわけですので、絵画、それから工芸品というふうにそれぞれ分けて当然管理していかなきゃならない部分もあると思いますので、そのあたり美術館のほうに、教育委員会のほうに、またひとつよろしく願いをしておきたいと思います。

それはそれくらいにしておきまして、3番目のほうに移らせていただきたいと思います。

まず、地区ごとの減少について、マイナス4.28、10.37という、世帯数がですね、言われたのですが、これはほかと比べて多いほうですか、少ない方なのですか。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

小杉企画政策室長。

企画政策室長（小杉嘉博君） 今おっしゃった人口と世帯数の、ほかと比べてという意味がちょっと、正直、わかりかねるのですけれども、そういう中で地区ごとのお話ということで申し上げますと、減少しているのは全ての地区でございますけれども、その中で減少率といまして、減少率が多いところ、上からちょっと調べますと、山崎、笹川、境の順番で減少率が多くなっています。あと、逆に減少率が少ない、ただ減ってはいるのですけれども、少ないところが、上から、大家庄、泊、五箇庄といった形になっております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） 町の中ではそこまで教えてもらわなくてもよかった。というのは、他の地区と比べて、町外というのがあります。富山県のところで比べて、何といいますが、一番、39.何%高齢化率がということもありましたものですから、その減少率は他地区と比べて多いのか少ないのかな、同じくらいなものかなということを知りたかったのです。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

小杉企画政策室長。

企画政策室長（小杉嘉博君） 先ほどお断りしましたように、朝日町の数値につきましては、今速報値ということで来ておりますので、まだ他自治体の状況がわかりかねておりますので、申しわけございませんが、ご理解いただきたいと思います。

議長（水野仁士君） 道用議員。

3番（道用昭雄君） ありがとうございます。

また、後で調べていただければと思います。

私がゾーンごとの朝日町を考えていけばということでは、よく似たような

感じだというふうに受け取ったのですが、将来像についてそういうふうに考えてよろしいのでしょうか、いかがですか。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

小杉企画政策室長。

企画政策室長（小杉嘉博君） また、ゾーンごとのというご質問でございますが、ちょっと申しわけございません。

私、先ほど答弁の中でも申し上げましたのは、やはりハード事業については地域に応じたような事業を進めていかなければならない。というのは、例えば企業誘致等をする場合に、田んぼのど真ん中に企業誘致をするというのではなくて、当然インターのそばとか8号のそばとかといったようなゾーン分けといったことは必要でしょうし、あと、言っておりましたように、住民の方が恩恵を受けられるような施策については、やはりソフト事業としては、どこに住んでいてもその恩恵を受けられるといったことを考えていくといったところでございます。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） これからあらあらと具体的になって出てくると思うのですが、全く、今まで私が申しましたのは、こういう方針をやりたいというのはわかったのですが、具体像がでてこなかったものですから、こういう質問をしてきたわけです。

その中で、先ほどおっしゃったように、平成11年に、16年間都市計画を考えてきたけど、時代とともに変化しているので、今見直しているんだという言い方をされまして、土地利用の中で中心市街地というふうにおっしゃいましたが、その中心市街地はどのあたりを考えておられるのか。現在の泊の街の中心市街地なのですか、新たに考えられるのですか、そのあたり、ちょっと聞かせていただきたい。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

竹谷建設課長。

建設課長（竹谷俊範君） 用途地域のエリアというふうな形で答えさせていただきたいと思っております。北のほうで言えば、中草野、松濤町を含めて主要地方道入善朝日線が境界という形になります。南のほうは、高速道路をイメージしていただければよろしいかと思っております。西のほうは、月山の一部を含めまして、旧沢田旅館さんのほうから草野におりていくほうが境界。東につきましては、木流川がございまして、泊高校まで北に向かいまして、あいの風鉄

道さんとの交差から東へ向かいまして、沼保宮本町線のほうを北へ向けていくと。このエリアを用途地域という形で中心地区というふうに今は定めております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） 8号線を中心にいろいろ変化をしていくわけなのではないでしょうか、どうなのではないでしょうか。今の話ですと、8号線から下で、何と申しますか、新しい道路が学校の下にできましたけれども、あそこのエリアも住宅街になっていますが、そのずっと上のほうからすると、8号線の下のところの地域が今都市計画道路の中に入っている。これは20年ほど前からの話なのですが、それも今含めたことを、その中に入っているということなのですか。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

竹谷建設課長。

建設課長（竹谷俊範君） そうですね、8号から下は当然のことながら、先ほども申しました一部高速道路からも入っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） 具体的にそういう話が出てきておるわけですので、できればそういうことがあるのならば、全体像としてこういう方向になるのですが、こういうような形が将来できればいいなと思うんだということぐらいは、町としても当然出されてもいいんじゃないかなと思うのですが。

そこで、人口減になっていくその中で、今度は、何と申しますか、老老介護じゃありませんが、ひとりになってその生計を立てていかなきゃならない。そういう環境が出てくる。それらを地域の、何と申しますか、今度は健康課のほうに話を移させていただきますが、そういう形を踏まえた形で朝日町で住みやすくするためには、老老介護にならない、ひとり生活にならないようなことで、先ほど話をさせていただいた中で、大体設備が整っているという言い方をされまして、私も話をいっぱい聞かせていただいたのですが、富山県の中でも朝日町は介護、看護、医療については非常に朝日町独自の発展の仕方をしておりまして、一番進んでいるように聞いておりますが、その中の、こういうふうなところが非常に進んでいるんだということを少し清水課長からお話し願えればと思うのですが。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

清水健康課長。

健康課長（清水明夫君） 今ほどのご質問でございますけれども、うちの町としては、施設経営というふうに考えますと、ほかの市町村とほぼ同じくらいかなと。ただ、有磯苑につきましてとか、そういう有磯会が運営します事業形態からいきますと、やはりベッド数におきましても県内に誇れるものであると思っておりますし、当然、うちのほうでは町立のあさひ総合病院があるということもございます。

ただ、うちの町として、ちょっと弱いところというのは、在宅系のものが少し弱いのかなというところがありまして、今まで公的にてこ入れを指定したところにつきましては、誇れるものかなというふうには思っておりますけれども、今ほど申し上げたように、居宅系、在宅系が弱いと。

これに関して、先ほどから、ひとり暮らしとか老老世帯がどうのという話がございますけれども、今後これらについては、施設はもうこれで充足されたという形でいくと、居宅での介護が必要になってくる。そのときには、地域包括ケアというもの、根本的には住民がボランティア的な形で支えるというようなシステムがこれから必要になってくるのかなというふうに思っておりますし、これから介護保険制度の変更に伴いまして、平成30年以降を目途に整備をしていきたいなというふうに思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） もうちょっと何かこういう支援もしておるということを聞いたように思うのですが、何か出し惜しみをしておられるんじゃないかなと思うのですが、それはまた、まあいいとして、今ほどおっしゃいましたように、居宅介護、在宅介護については弱いところだと言われますが、どこでもそうなのでしょうけれども、じゃ住民が、たとえボランティアとしても、町内が少なくなっていく中でそのことの協力が可能なのでしょうかと私は思うんですよ。

そういうことから考えると、どう言うていいのかな、今後これから施設はもうつくりたいんだというふうな発想を言われるわけですが、そういう方々をそういうところに集めて活性化を図るということも可能であり、例えば在宅介護にするにしても、それに対する職員が必要になってくるわけで、そうだったら、そこへ一括して集められたほうが職員の数というのは、割合からすると少なくなってくるんじゃないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

清水健康課長。

健康課長（清水明夫君） この件に関してですが、今、いわゆる施設は、特別養護老人ホーム、それから介護老人保健施設、それから療養型医療施設というようなものを「施設」と申し上げております。居宅系ということになりますと、地域密着型サービスということで、今ですと新川地域介護保険組合、介護保険者が指定をするグループホームなどがございます。このような形のもので、今、新川介護の計画においてもグループホームの整備等が盛り込まれていると。一般的にこのグループホームとかそういうものについては、施設系というふうに思っておられるかもしれませんが、介護の分野では居宅という扱いをしております。これらのものを整備していくというような形で進めていくと。

もう1つは、先ほどもありますけれども、事業所をやりたいと、できるという方がおられればよろしいのでしょうかけれども、なかなかいないというところがありまして、そうなりますと、当然自宅での世話が必要になってくるということでありまして、今民生委員の方を中心として社会福祉協議会ではケアネット事業というものが行われております。このケアネットというのは、チームを組んでその方のごみ出しとか散歩だとかお掃除だとかそういうようなものをしておられるのですけれども、これについては地域において非常に温度差があります。バランスが非常にかげ離れております。そうした中でこのようなものを展開していかなくちゃいけないと。

今、ことしから介護保険制度が変わりまして、やっているわけですがけれども、究極にはこの介護保険制度はケアネットを求めているだろうというようなことであります。そういうことから、今町内会におけるミニデイサービスとかそのような形のもを展開していこうというのが今の介護保険制度だと理解をしておりますので、これについててこ入れをしていかなくちゃいけない。

その前段として、民生委員の方がおられますけれども、朝日町全体で56名の方がおいでになります。ただ、町内は、朝日町では100町内を超えておりますので、当然民生委員の方1人がかけ持ちをしておいでになるということになるわけです。そうしますと、自分の町内ならわかるけれども、隣の町内はわからない。年配の方なら3つも4つもわかるかもしれませんが、これからの時代からいくと、自分の町内もわからないのに、隣の町内がわかるかという話が出てまいります。

これを踏まえまして、2年前でしょうか、福祉サポーターという形で民生委員に情報を提供していただく。民生委員のいない町内会に福祉サポーターという方を設置させていただい

たわけであります。これについて、今まだ認知度が非常に低いので、町内会のほうに福祉サポーターという方を村の役の1つとして考えていただけないかということをご提案していきたいなというふうに思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） ありがとうございます。

課長のおっしゃることと私が思っておることが少し違うような気がするのですが、それはそれとして、きのうも新聞に福井の在宅介護の話が出ておったのですけれども、要するに、医師、看護師、介護士などが常にそのひとり老人、老老の夫婦たちを最後までみるという介護方式はもちろん理想的なのですが、そこへ行くまでに、民生委員の方々がごみ出しとか散歩とかということをやられる。それは大変大事なことです、それ以上のことになると、やっぱり専門家でないとなかなかできないという部分がありますので、私はそれ以上の、専門家の方々を必要とする、何というか、介護、それを今後どういうふうな形で確立されていくのかなということをお願いしたかったわけで、あんまり時間がないので、これからひとつ、そういう事柄として質問したのですが、何か方法がありましたら一言だけでもいいですから。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

清水健康課長。

健康課長（清水明夫君） まず、専門性という話になりますと、やはり施設系を充実させなくてはいけないのかなということでございます。ただ、現在、介護職員の不足という問題を抱えておまして、この方々が充足されるというような状況があって、まずそこから始めていかなければならないのかなと思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

道用議員。

3番（道用昭雄君） そういうことを聞きたかったわけで、ありがとうございました。

ということもありますので、町長にもぜひそういう介護、安心して暮らせるまちづくりのためにはそういうこともぜひ必要になってきますので、県への要望もまたひとつよろしくお願ひしたいということで質問を終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。

【大森議員の質問へ移る】

議長（水野仁士君） どうもご苦労さまでした。

ここで、暫時休憩をいたします。休憩時間は約15分間とし、11時45分から再開をいたします。

（午前 11 時 29 分）

〔休憩中〕

（午前 11 時 45 分）

.....

議長（水野仁士君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、志政会代表、大森憲平君。

〔10番 大森憲平君 登壇〕

10番（大森憲平君） 10番の大森憲平でございます。平成27年第8回朝日町議会定例会におきまして、ただいま議長のお許しを得まして、さきに通告してあります3件について、志政会を代表して質問させていただきます。

質問に入る前に、傍聴の皆様方には、早朝からいろいろとありがとうございます。また、今後とも町政、大いによろしく申し上げます。

それと、ことしは異常気象のためか、自然災害が多く発生し、多くの方々が亡くなられておられます。ここで謹んでお悔やみ申し上げます。

また、当町でも、いつ災害が起こるかわかりません。災害から守る施策や日ごろの訓練・指導をお願いいたします。

また、TPP問題も、曲がりなりにも締結され、これからいろいろと農業問題等があると思います。しっかりと対策をお願いいたしまして、質問に入らせていただきます。

1件目の行政改革の推進についてお伺いいたします。

要旨(1)の組織機構の合理化についてですが、活力ある地域社会を形成し社会福祉の増進を図るためには、国の行政改革と合わせて当町の既存の組織、制度、施策を見直して簡素で効率的な行政改革が叫ばれていますが、当町の行政改革の考え方をお聞かせください。

要旨(2)の職員の研修についてお伺いいたします。

当町で職員研修が行われていると思いますが、年間どのくらい行われているのか。研修先と期間はどのくらいあるのか。また、有力企業などに研修されたことがあるのか。なければ行う考えがあるのかお尋ねをいたします。

要旨(3)の事務の見直しについてですが、住民本位に立って既存の事務を見直して行政はどこまでやるべきか。行政の守備範囲を再検討し、補助金等が本当に有効に使われているのか等を確認し、これを整理して統合を行うことが望ましいと思いますが、考えをお伺いいたします。

【答弁：総務課長】

.....

2 件目の朝日町再生会議の提言書についてお伺いいたします。

去る11月25日に再生会議の提言書の説明会が開かれました。委員の各位には、ことし1月から12回の会議が開催され、いろいろな課題を討論され、大変ご苦労さまでございました。心より敬意を表します。

要旨(1)の提言書に掲げられたことに対しての進め方について、町長にお伺いいたします。再生会議の提言書について、これからどのようにして町政運営に取り上げていかれるのかお伺いいたします。

要旨(2)、朝日町総合戦略や第5次朝日町総合計画とのかかわりが出てくると思われますが、どのようにされていかれるのか、町長にお伺いいたします。

要旨(3)のこれからの朝日町再生会議の進め方についてお伺いいたします。

ことしの1月から約1年かけて議論された再生会議は、今後どのように進めていかれるのか。また、いつごろまで開催されていかれるのか。メンバー等も変わらないのかお尋ねをいたします。

【答弁：町長】

.....

3件目の住民要望についてお伺いいたします。

要旨(1)、大屋海岸の木流川の河口から笹川の河口までの近辺の海中に、波消しブロックの1固体が散乱して景観があまりよくなく、特に干潮のときは多く見られます。夏の海水浴シーズンには大変危険と思います。また、傾斜護岸堤の上にも大きな石が載っているところがあります。どのようにして対処され、除去されるのかお伺いいたします。

要旨(2)、あさひ総合病院前の県道から病院職員の駐車場及び有磯苑に向かっていく交差点についてですが、県道に出るときには大変見渡しが悪く、またカーブミラーが小さくて見えにくいし、右側の民家の塀や木があり、右側から宮崎方向に向かう車が見にくいために、何か対策ができないのかお尋ねをいたします。

要旨(3)、町内の融雪装置の設置状況ですが、今どのようになっているのか。また、要望状況がどのようになっているのかお尋ねをいたします。

【答弁：建設課長】

要旨(4)、高畠から池ノ原へ向かう林道の側溝が埋まって、水が道路に流れています。雨が多く降るときなどは川のように流れ、のり面が崩れそうになっていますが、早く対処しないといけないと思います。場所は朝日産業の横から池ノ原方面に向かってたくさんの箇所があります。対策をお伺いいたします。

【答弁：農林水産課長】

以上で私の質問を終わります。

わかりやすい答弁をお願いいたします。

【以上、大森議員の代表質問に対する町長答弁】

.....

議長（水野仁士君） この際、暫時休憩をいたします。休憩時間は約65分間とし、午後 1 時から再開をいたします。

（午前 11 時 53 分）

〔休憩中〕

（午後 1 時 00 分）

.....

議長（水野仁士君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほどの志政会代表、大森憲平君の質問に対する答弁を求めます。

笹原町長。

〔町長 笹原靖直君 登壇〕

町長（笹原靖直君） 志政会代表質問、大森憲平議員の件名2、朝日町再生会議の提言書について、要旨(1)、(2)、(3)についてお答えいたします。

私の公約である朝日町再生会議につきましては、「夢と希望が持てるまちづくり」を目指し、町民のまちづくり意識の醸成や町民への情報発信を行うとともに、町が抱える課題について幅広く議論することを目的として、平成27年1月29日に発足し、10月29日に提言書をいただきました。

再生会議では、この10月の提言までに12回もの会議を開催し、議論を深められ、働くお母さんを“日本一”応援する事業やU・Iターン向け促進住宅事業、朝日町6次産業化構想、泊駅、越中宮崎駅及び駅周辺の魅力アップ事業など11もの事業を提言していただきました。

提言内容は、どれも真に町の再生と発展に向けて前向きに考えられたものばかりであり、町といたしましても、この提言を真摯に受けとめ、着実に推進していかねばならないと考えております。

このことから、再生会議からの提言は、地域特性や強みを生かしながら、人口減少対策に重点を置いた、本年10月に策定の「朝日町総合戦略」や、平成28年度からスタートに向け策定作業を進めております「第5次朝日町総合計画」に盛り込んだところであります。

総合戦略には、基本目標として、1つ、「町に仕事をつくる、町の価値を生み出す」、2つ、「町への人の流れをつくる、町に人を呼び込む」、3つ、「若者の結婚・出産・子育てを応援する」、4つ、「時代に合った地域づくりを進める」といった4つの目標を掲げ、施策を展開していくこととしております。

働くお母さんを“日本一”応援する事業は、子育て応援企業の拡大や子育て広場、母親の交流の場の充実などとして、また朝日町6次産業化構想は、農林漁業の6次産業化、農商工連携事業の支援、地域ブランド構築事業などとして、その提言の大半を総合戦略事業として取り入れております。

また、平成28年度予算は、現在編成作業を行っているところでありますが、再生会議からいただいた提言を踏まえた主な重点事業として、新規担い手農業者の育成事業や米を含めた地域ブランド構築事業、日本一を目指した子育て支援事業の拡充、空き家対策を含めた定住

サポート事業の拡充などを現段階で検討しているところであります。

次に、これからの再生会議の進め方についてであります。現在の再生会議委員の任期は平成29年3月31日までとなっており、今後も継続して協議を進めてまいります。

さらには、再生会議からの提言実施に向け、提言をより具体化していくため、新たな施策の検討、さらには再生会議の提言にあります、朝日町にたくさんおられるすぐれた能力や豊富な経験を持つ町出身者の方々を人材バンクに登録し、町の活性化事業につなげる「朝日町ふるさと応援団」なるプロジェクトチームを発足したいと考えています。プロジェクトチームは、再生会議メンバー、町関係職員、町民の参画などを予定しており、提言の実行には何を準備し、どうすればよいかなどを協議しながら、提言事業を実行に移してまいりたいと考えております。

私からは以上です。

[【質問：件名2に戻る】](#)

[【各担当者の答弁へ移る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 次に、件名1、行政改革の推進についての要旨(1)から要旨(3)までを、山崎総務課長。

〔総務課長 山崎富士夫君 登壇〕

総務課長（山崎富士夫君） それでは、私のほうから、件名1、行政改革の推進についての要旨(1)、組織機構の簡素合理化について、要旨(2)、職員の研修について、そして要旨(3)、事務の見直しについてお答えをいたします。

少子高齢化が進展する中、消費税率の引き上げなど景気の先行きが依然不透明であり、今後も町税を初めとする一般財源の大幅な増は見込めない状況にあります。このような財政状況の中において、しっかりと住民サービスを提供していくためには、より簡素で効率的な行政運営に努めていく必要があると考えております。

町の組織機構につきましては、過去には、平成16年の機構改革のように、当時11ありました課・室・局を8つに整理統合したことや、平成18年には部制を導入したこともありますが、その後、組織のスリム・効率化を図るため、平成24年には部制を廃止するとともに、新たにまちづくり推進統括監を設置するなどの再編を行ってきております。

また、平成25年には産業課を商工観光課と農林水産課に分割、さらに平成26年からは総合案内の設置を行ったほか、今年度からはグループ制を係制に変更するなど、その時々状況に応じた組織機構の再編等を実施してきております。

加えて、行政改革に資する新たな制度として、平成28年度には職員の事務能力や勤務実績を反映した人事評価制度の導入を予定しております。

職員の能力及び業績を評価し、評価結果を任用や給与に反映するなど、努力した職員が報われるような仕組みを導入し、限られた職員数であっても組織全体の士気高揚、あるいは公務能率の向上を図ることで、住民サービス向上につながるものと考えております。

さらに、施策の点におきましても、総合戦略審議会においていただいた意見や朝日町再生会議からの提言等を盛り込んだ朝日町総合戦略をこの10月に策定いたしましたところでありまして、また平成28年度からスタートいたします第5次朝日町総合計画につきましても、鋭意策定作業を進めているところであります。

今後とも、町政運営全般の透明性や説明責任、公平性、公正性を確保しながら、地方分権型社会にふさわしい自立した自治体として、簡素で効率的な行財政改革に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

次に、要旨(2)の職員の研修についてお答えをいたします。

職員につきましては、少数精鋭での町政運営が求められている中、人間性や創造性にすぐれた有能な人材の育成が重要であります。職員一人一人の可能性や能力を最大限に引き出すとともに、職員のやる気を高め、組織としての総合力を最大限に発揮させるためにも、職員の研修にはこれまで以上に力を入れていかなければならないというふうに考えております。

これまでは、新規採用職員を対象といたしましたごみ収集体験研修や高齢者の介護研修を初め、全職員を対象とした接遇研修でありますとか、メンタルヘルス研修、そのほか、富山県市町村職員研修機構が主催いたします新任職員研修や主任研修、係長研修、課長研修などを役職ごとに受講させてきております。

また、より高度かつ専門的な知識の習得を目的に、千葉県にあります市町村職員中央研修所でありますとか、滋賀県にあります国際文化アカデミー等で1週間程度の研修に派遣をしているほか、水道技術管理者や介護支援専門員などといった資格取得にも取り組ませてきております。

さらには、各自治振興会の担当として若手・中堅職員を地域の活動や会議、運営にかかわらせたり、朝日町再生会議など広く公務員以外の方々との交流や意見交換の場にも参画させてきているところであります。

このように、公務員としての資質向上を図るためさまざまな研修、会議を受講させてきているところでありますが、資質の向上や人材の育成は1度や2度の単発的な研修ではできるものではなく、今後も継続的に研修を実施していくとともに、新たに先進的な他市町村の実情及び専門的・技術的な事項について調査することにより、職員の資質の向上及び視野の拡大につながるよう、他市町村への派遣研修や民間企業と公務員の違いを肌で感じられるよう、新たに民間企業への派遣研修についても現在検討しているところでございます。

現在も富山県庁を初め岩手県釜石市や社会福祉法人有磯会への職員の派遣も行っておりますが、今後、具体的には先般災害協定を締結いたしました北海道東川町でありますとか長野県白馬村などでの派遣研修も視野に、新年度に向けて職員研修に係る予算枠を拡充する方向で検討、要求をしたいというふうに考えております。

次に、要旨(3)の事務の見直しについてお答えをいたします。

当町の事務の見直しにおける取り組みといたしましては、平成17年、総務省通達を受け策定いたしました集中改革プランに基づき、これまでも業務の囑託化や民間委託、公共施設の統廃合や指定管理者制度の導入など、さまざまな事務事業の見直しに取り組んでまいりました。

また、補助事業につきましても、事業の緊急性や必要性、効果等を勘案し、適宜見直しを図りながら積極的に国・県の補助事業の活用に努めるなど、柔軟に対応してきているところでございます。

さらに、直近では、公共施設のあり方検討会を内部的に立ち上げまして、少子高齢化などに対応した今後の公共施設や町有地の整理合理化を図るための検討を進めてきております。

これらにつきましては、議会とともに協議と議論を重ねてまいりたいと考えておりまして、事務事業の施策の費用対効果ですとか成果、さらには必要性や有効性、公平性、効率性の視点からも今後の方向性を判断の上、整理、統合も含めまして、スクラップ・アンド・ビルドを基本に予算や計画に反映してまいりたいと、そのように考えております。

以上でございます。

[【質問：件名1に戻る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 次に、件名3、住民要望についての要旨(1)から要旨(3)までを、竹谷建設課長。

〔建設課長 竹谷俊範君 登壇〕

建設課長（竹谷俊範君） それでは、私のほうからは、件名3、住民要望について、要旨(1)、(2)、(3)についてお答えいたします。

まず最初に、要旨(1)、大屋海岸近辺の波消しブロックの岸辺近くの散乱についてでございます。

大屋海岸には、海浜公園が隣接しており、海水浴シーズンには、県内のみならず、長野県、群馬県など県外からも多くの方々が訪れております。

しかしながら、大屋海岸を含む下新川海岸一帯は、日本有数の侵食海岸であり、また寄り回り波等による高潮の影響を受けやすく、その侵食対策や高潮対策に、国・県ともに整備を進めているところでございます。

ご質問の傾斜護岸堤における大きな石につきましては、大屋海岸を管理する富山県入善土木事務所がことしの9月に傾斜護岸堤の上から大きな石を撤去したところではございますが、その後の高波により、再度打ち上げられたものとお聞きしております。

また、海浜公園から笹川河口付近にかけて、整備済みの波消しブロックが高波の影響で一部散乱している状況もあり、大屋海岸の景観を損なっていることは、県も認識しているところでございます。

町といたしましては、海水浴客の安全確保や大屋海岸の景観を守るためにも、海岸事業の促進とあわせて、県に強く要望してまいりたいと考えております。

次に、要旨(2)、あさひ総合病院前の県道から病院駐車場及び有磯苑に下がる道路についてでございます。

今日の車社会の進展に伴い、日常生活を支える道路につきましては、安全性の確保を第一に地域の実情を十分に把握し、安全で快適な道路づくりが求められております。

ご質問の交差点は、主要地方道入善朝日線と町道弥生町清水町線との交差点であり、町道につきましては、あさひ総合病院の職員や有磯苑の職員のほか、周辺施設の利用者の方々が主に利用されている道路でございます。

交差点における見通しにつきましては、特に町道から県道の西側へ右折する際の見通しが悪いことは認識しております。

この安全対策といたしまして、2面鏡のカーブミラーを1基設置しておりますが、ほかの

対策といたしましては、町道側の交差点にすみ切りすることも考えられ、周辺の方々のご協力がいただければ、検討してまいりたいと考えております。

次に、要旨(3)、町内の融雪装置の要望の状況についてでございます。

朝日町管内における県道につきましては14路線があり、全延長の54.1キロメートルを県で管理しております。そのうち融雪装置は13路線、延長にいたしまして30.8キロメートルに設置されております。設置率は56.9%となっております。

町道につきましては現在396路線があり、全延長の210.1キロメートルを町で管理しております。そのうち融雪装置は120路線、延長にして27.1キロメートルに設置しており、設置率は12.9%となっております。

ご質問の融雪装置設置の要望状況でございますが、県道につきましては、黒部朝日公園線、北羽入善線、山崎草野線の3路線、延長にして2.3キロメートルの設置要望があります。

この要望につきましては、富山県への重要要望事項として、ことしの7月に要望活動を行っており、今後も進捗状況を踏まえて、県へ要望してまいりたいと考えております。

町道につきましては、笹川地区、泊地区、五箇庄地区、山崎地区から設置の要望があり、要望路線は15路線、延長にして4.6キロメートルの設置要望をいただいております。

町道への融雪装置の設置につきましては、朝日町道路消雪施設設置要綱に基づき設置しているところでございます。設置の基準といたしましては、交通量が多く、かつ人家が連檐しており、機械除雪が困難な町道や主要な公共施設に通ずる町道としております。

また、設置する町道に面する町内会から、維持管理に必要な電気料の一部を協力金として負担していただいていることも設置条件の1つとなっております。

町道への設置要望をいただいている路線につきましては、要望路線全てが設置基準を満たしているわけではございません。

町では、設置基準を満たしていない町道への設置要望につきましては、要望をいただいた自治振興会、町内会へ設置基準等をご説明し、ご理解をお願いしているところでございます。

融雪装置につきましては、毎年多くの路線について設置要望をいただいているため整備に時間を要しておりますが、町といたしましては順次整備を進めているところでございますので、ご理解をお願いしたいと考えております。

以上です。

[【質問：件名3に戻る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 同じく件名3、住民要望についての要旨(4)を、坂口農林水産課長。

〔農林水産課長 坂口弘文君 登壇〕

農林水産課長（坂口弘文君） 志政会代表質問、大森憲平議員の件名3、住民要望についての要旨(4)、林道、池ノ原、高畠地内の道路側溝についてお答えをいたします。

ご質問のありました林道三峯線は、おおむね7月と11月の2回、道路路面と道路側溝の清掃を行っております。このほかにも、大雨の後には林道パトロールを実施し、点検、異状の発見に努めているところであります。

しかしながら、最近の局地的な大雨や台風などの大雨の後の地山の緩みからの土砂の流出、秋口には落ち葉や倒木により側溝が詰まってしまう事例があるのも事実であります。

これからも通行に支障のないよう管理に努めてまいります。林道の異状を発見された場合は役場にもご一報いただければと思います。

以上です。

[【質問：件名3に戻る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 大森議員、ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） いろいろと詳しい答弁、ありがとうございました。

二、三再質問をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。

まず、1件目の行政改革の推進についてでございますが、私、ちょっとわからんですがですけど、行政改革検討委員会というのが今庁内にあるのか、設置されているのか、ちょっとお伺いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

山崎総務課長。

総務課長（山崎富士夫君） 議員がお聞きになっておられるのは、多分他市町村のところ、例えばこの近くでいいますと、魚津市あたりのほうで最近の新聞に行政改革推進委員会ということで出ておったこともありまして、そういった類いの委員会があるのかというお尋ねだというふうに思いますが、今現在、うちの町のほうで行財政改革という名もとの内部的な組織、まして外部の方々を入れた組織というのは、現在はございません。

ただ、内部的には、先ほど言いましたように、その都度その都度、例えば今で言いますと、公共施設のあり方検討委員会でありますとかそういったものはありますけれども、外部的な方々を交えた委員会というものは、現在はございません。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） それは、わかりました。

それでは、何か今、副町長を中心とした、各部課長を集めたそういう財政改革についての委員会をつくる、検討される気があるのかないのか、ちょっとお伺いいたします。町長、お伺いします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

笹原町長。

町長（笹原靖直君） 現段階では、そういったことも視野には入れてはいかねばならないと思っておりますが、限られた職員の中で今取り組まなければならない優先課題も多々ある中で、そういったことで先に取り組んでいきたいというふうに思っておりますし、今ご提言があったことも視野に含めながら、今後検討課題の1つになってくるのではないかとこのように思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） ぜひつくって町の財政を活性化していただきたいと思います。これは町民も願っていることだと思いますので、よろしく検討をお願いいたします。

次に、職員の研修でございますが、先ほどいろんな研修を言われました。その研修会に出られるその職員の選考というのは、どういうことで決めて出しておられるのか、ちょっとお伺いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

山崎総務課長。

総務課長（山崎富士夫君） 先ほどお答えしましたとおり、新採職員は新採職員、それから係長級、主査級、課長級、課長代理級、それはおのずと職務に基づいて選考できますので、そういったものは職務に応じた選考の仕方。それから、例えば県への派遣でありますとか、今言いました釜石への派遣等々につきましては、当然向こうの求めもございますし、求める年代層、それから職務の程度というのもございますので、そのあたりも勘案しながら選考の上、派遣をしております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） わかりました。

年間何人ぐらい研修会に出ておられるのか、もし数字がわかればお願いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

山崎総務課長。

総務課長（山崎富士夫君） 26年度で申し上げますと、研修に参加した職員は108名、延べで行きますと292名、かなりの数。1人が複数回の研修を受けているという計算になりますけれども、300名ぐらい、延べで言いますと、研修に出しております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） 研修に行かれた職員のレポートとか何とかを出していただいて、それに対しての、これから町が何かをしていかなんということを検討されておられるのかどうか。ただ、レポートを提出するだけじゃ意味がないと思いますが、どのように対処されたのか、お伺いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

山崎総務課長。

総務課長（山崎富士夫君） 当然研修に出した職員につきましては、復命書並びに業務報告といった形でレポートを提出はさせております。そのレポートにつきましても、関係課、それから当然所管課もそうですけれども回しておりますし、職務に応じては、上のほうの合議にも回していると。

ただ、そのレポートを書くということもございますし、それを見せるということもあるのですけれども、研修に参加した職員の意識の変化と申しますか、そのあたりの意識のかわり方ということにも注目しております。非常に研修によっては職員の力になっているものも数あると、多くあるというふうに思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） 県庁への出向、これも研修の中に入ると申しますが、その人選というのは、これはこの場で聞いていいが、どういがかかわらんがですけど、どのような人を対象にして出されているのか。その研修に行かれた期間、どのような勉強をしてこられたのか。そういうのというのは、聞き取りとか何とかはされておるのかどうなのか。町の財政の活性化に何か役に立っておるかどういがか、ちょっとお伺いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

山崎総務課長。

総務課長（山崎富士夫君） 県庁の職員研修、派遣につきましては、20代後半から30代半ばくらいまでというような大体の目安がございます。それは、県のほうもそういった中堅的な職員の養成という名目で受け入れておりますものですから、今までの経験と申しますか、今までの例から行きますと、20代半ばから30代半ばぐらいの職員を派遣しています。

ただ、それも、うちの町の職員も全てその階層にたくさんいるということもございませんし、その職員が置かれたときのその現在の勤務年数であるとか職場の状況とか、1年目の職員をすぐ出すというわけにはいきませんし、職場の状況等も勘案しながら派遣をしている。当然、その職員の家庭の環境もございまして、そのあたりも十分踏まえながら、向こうと話をしながら派遣をしていると。

それから、派遣した職員について、大抵1年なのですけれども、1年たって帰ってきた職員に対して特にレポート等は求めておりませんけれども、向こうでの実務的な、現場に入っ

て実際の県の職員として働くわけでございまして、非常に大きな力を身につけて帰ってくる。それと、みずからの能力もそうですけれども、一番私たちが期待して効果を感じているのは、人脈の養成といいますか、そういったものを身につけてきてくれるということで、これからできれば、人員を見ながら、余裕を見ながら、県への派遣、県に限りませんけれども、先ほど言いましたように、白馬村でありますとか、東川町でありますとか、さらには民間研修ということも現在考えているところでございます。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） 県庁への出向というのは、私は、今課長が言われたように、やはり人間関係をつくって県とのパイプ役を、今まで出向しておられた人たちに、いかにして朝日町とのパイプをつくっていただけるか、それがやっぱり一番大事なことだと思いますので、またその点よろしくお伺いいたします。

それと、先ほど私、質問した中で、有力企業にも研修に出しておると伺いましたが、これは具体的に、県内での有力企業なのか、あるいは町外の企業なのか、どういう企業なのか、ちょっとお伺いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

山崎総務課長。

総務課長（山崎富士夫君） 有力といいますか、有名な企業というふうに置きかえていただいてもいいと思うのですけれども、ただ今現在、ちょうど詰めの打ち合わせをしておりますので、この場であまり具体的なことまでは踏み込んで申し上げられない段階でございますので、もしある程度の方向が決まれば、ご報告をさせていただきたいと思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） ぜひその大企業なり、有名な発展している企業のやっぱりノウハウなどを十分に取り入れて、町政も発展させていただきたいと思えます。

それともう1点お伺いしますが、先ほど町長も言われたように、白馬村とか東川町とか言っておられますね。特に北海道の東川町は副町長が2人あって、1人が常に中央へ詰めて補助金とかそういういろんな補助制度を活用してその町が発展しておると。国の補助を受けて町が再生するのはまことにいいことだと思いますが、朝日町では、町長、2人制というのは考えておられるのかどうか、ちょっとお伺いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

笹原町長。

町長（笹原靖直君） 今大森議員の言われたように、東川町は本当に8,000人の町で精力的に取り組んでおられる。私ども、見習うべき点が多いというふうに思っております。

副町長制の2人というのは、当然私どもも加藤議員と議員時代に勉強させていただいて、非常に効果のあるものだというふうに思っています。

ただ、いずれにしろ、私ども、昨年度には、特別職等との審議会等を設けながら、そういったことを踏まえながらいろいろ検討材料ではないのかなというふうに思っています。実際11月あたりは、私自身、体が2つ欲しいというのは実情であります。議会も終わって、また12月の下旬には企業誘致と、そしてまた国のほうへ行くわけなのですが、やっぱり日程調整がなかなか折り合わない。こちらの都合だけではお会いすることができない。向こうの都合等々がある場合に、やはり町の中をしっかりと見てくれる体制と、そして外交という面では、今の状態では少し厳しいのが現状ではないかなというふうに思っています。

いずれにしろ、そういったことが、動けるシステムを限られたメンバーの中で構築していかなければならないというふうに思っているわけでありまして、そういったいろんなことも検討材料として取り組ませていただければというふうに思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） ぜひお願いいたします。

それと、要旨(3)の事務の見直しについてでございますが、課の再編、これで、私、議員をやっているもう3回ほどやっておられます。

これは何で言うかといいますと、今、朝日町が観光に特に、交流人口が、入れたり何だりして、観光とかそういうものに力を入れていくべきだと私は思います。そういう意味で、今のこの観光課というのは庁内から切り離されておるような気がいたします。これはやっぱり、ちょっとお伺いしますが、県内の15市町村の中で観光課を持っておる市町村はどれくらいあるのか、ちょっと私、調べていなかったもので、わかればお願いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

山崎総務課長。

総務課長（山崎富士夫君） 観光課という、観光に特化した、観光という名前だけの……

10番（大森憲平君） いや、入れた中で。

総務課長（山崎富士夫君） 商工観光課とかというのを含めてでしょうか。

10番（大森憲平君） はい。

総務課長（山崎富士夫君） 県内15市町村全てを存じ上げているわけではございませんので何とも言えないのですが、また詳しい、間違っただけとは言えませんので、調べた上でご報告させていただきたいと思いますが、結構あるのかなという気はします。

先ほど言いましたように、ずっとうちの町も商工観光課があって、それが1回なくなって25年に皆様も、ここへあたりして、産業課から商工観光課をまた独立させたところでありまして、おっしゃりたいことというのは、商工観光課のこれからは時代だという側面もあると思いますので、商工観光課については課として独立をさせましたし、人員の充実なりスタッフの強化にも努めてきておりますので、そのあたりはご理解をいただきたいと思います。

ちなみに、商工観光課とは別に、他市町村の課の数を参考までに申し上げますと、今現在うちの町は、病院等を除きますと、11の課・室・局がございます。ちなみに、今、入善町は13、立山町が12、上市が10、黒部とか魚津へ行きますと20を超えますけれども、町の段階ではそういう形であると。決してうちの町が極端に少ないということでもございませんし、人口規模から行くと、そういった感じなのかなというところでありまして、うちの町で観光課を独立させましたけれども、例えば財務課というのがございまして、ほかの町は企画財政課と税務課が別個になっておりますけれども、うちは財務と税務を一緒にしたりとか、その町その町の考え方なりやり方で少しありますけれども、課の数としては、町の規模からすれば平均的なのかなというふうに思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） やっぱり課の再編というのは、本当に難しい問題が出てくると思います。しかし、町民が願っているのは、やっぱりスリムで動きやすい課を望んでおられると思います。そういう意味で、ぜひこれからも課の再編もあり得ると思いますので、検討していただければと思います。要望にしておきます。

次に、2件目の朝日町再生会議の提言書についてでございますが、先ほど町長にも提言いただきました。これからこの提言に基づいて、もちろん第5次総合計画や、この3つにもう全部尽きてくると思いますが、これからこの3つをどのようにして中心にしてこの再生会議のことを取り入れていかれるのか。

先ほど答弁でもいろいろとされたと思いますが、何かこの間町からもらったテキストみた

いやつにはいろいろとその都度ありったけのことを書いてあると思いますが、やはり現実味のある事業なり、それからこの事業に対しての説明を町民にきちんと果たすべきだと思います。町へ行ってこういう話をするとか、そういうことをやる考えがあるのか、町長にお伺いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

笹原町長。

町長（笹原靖直君） 大森議員の言われるのは、やはり情報の発信に尽きるのかというふうに思っています。

まず、前段のほうの再生会議の提言というもの、それは真摯に受けとめながら、いかに確実に実行していくかということだというふうに思っています。もともとこの再生会議を立ち上げたときに、しゃくし定規は要らないんだと。しっかり取り組む、やるということを前提に検討していただけるようにと申し上げました。

少し長くなりますが、会議の委員の皆さんたちは1回につき2時間半、あわせてその終わった後でも熱心に勉強されておいでになりました。あわせながら、事前にいろんなところでリサーチ、いろんな情報を調べられて、そして取り組んでおいでになったという経過があります。そういった意味で、本当に重みのあるものだというふうに私は思っているわけでありまして、議員のほうからも、あるいは私どもも、時間の許す限り出席をしながら進めていたというのがその再生会議であります。

そして、後段で言われました、もちろんこれはこのことに限らず、やはり町としていろんな町の今現在行っている施策等々も、情報発信が町民の皆さんに伝わっていないというのは常々思っているところであります。こういったことも、今言われたことも、要望等も踏まえながら、今後この情報発信に向けてどのように具体的にしていけばいいのかなということも今後検討していきたいと思いますが、私も通年でタウンミーティングもやっておりますのでぜひお呼びかけしていただければ、そういった提言なり、あるいはいろんな情報発信に、地区の皆様方に飛び込んでお話をしたいというふうに思っておりますので、そういった中でご理解を賜ればというふうに思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） ありがとうございます。

やはり28年度予算にどうやって私は取り入れられたいのかと質問しましたが、まだこれか

ら3月まで大変な作業が残っております。ぜひその今言ったことも入れて、町民にわかりやすい取り入れ方をしていただければ、町民も納得いくんじゃないかと、そう思いますので、これも要望でございますが、ぜひそのことを勘案して予算化していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に、住民要望のほうへ移りますが、先ほど、1点目の朝日町の大屋海岸の波消しブロックの散乱、そういう話が、今まで県に何遍も要望されたとお伺いいたします。これは、こういう話が出てから実際に撤去したということは、波消しブロックに関しては1回もないでしょう。ちょっとそれをお伺いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

竹谷建設課長。

建設課長（竹谷俊範君） 今のお話の波消しブロックが、高波で1個あたりが飛んでおるような、ブロックを撤去したかというお話だと思うのですが、ちょっとそのへんにつきましては、なかなか、県のほうとしても認識はされておられますけれども、1つでも撤去したかということにつきましては、まだちょっとこちらのほうでは確認等はしておりませんので、またそのへんのところは県のほうに確認していきたいと思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） 県のほうへ、あるいは国のほうへ要望した。これ、今までに、しつこく言うわけですが、何回ぐらい要望されたのですか。1回だけ、それともその都度要望書に入れておられるのか。私、あんまり聞いたことないのですが、その点どうなっているのか、ちょっとお伺いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

竹谷建設課長。

建設課長（竹谷俊範君） 離岸堤とかそういったことに対しての実際の要望というものは、新規・継続的なことは当然重要課題として要望しております。そういった中で、高波等によってそういった部分的に撤去ということに関しましては、書面等ではなく、逐次その担当のほうに連絡を入れて、早急な対応をしていただけないかというような形で要望をしております。そういった関係で、先ほどあった傾斜護岸堤に上がった大きな石とかそういったことも逐次お願いしまして、何回かやっていただいておりますのでございます。

先ほどもお話ししましたが、9月にはそういった形でしていただいたのですが、ま

た再度上がっておるといふことも、現地のほうでは今、私のほうでも確認しております。ただ今後、この冬シーズンを迎えます、またそういった高波等が多く発生してくる部分もありますので、パトロールしながらまたそのへんのところの情報を土木さんのほうにお話しして、逐次そういった要望はしていきたいというふうには考えております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） ことはこれで海は荒れてまたそういうのが起こると思いますが、来年からまた、これで新幹線も開業して海水浴にもたくさん来られると思いますので、ぜひその点を県に要望していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それと、あさひ総合病院の横の県道から、今有磯苑とか町の病院の駐車場へ向かうあの道路が本当に、私も何遍も見ていますけど、混み合っているわけでございます。これは、県道からあこへ入るときよりも出てくるときが、かなり見渡しが悪い。入るときも必ず混雑するのですけど、そういう件がありますので、何か地元でも、先日課長のほうから、地元から要望が上がっておらんがで何とかと言わっしゃるけど、私はそういう問題じゃないと思います。やはりそういう、私に何かしてくれということ、議会に話してくれと言われる人がおられますので、そういうことが1つ1つ、町が一生懸命にやっておるといふことにつながっていくんじゃないかと。

それで、この道を迂回する道路というのは、今総合病院の横から大屋のほうへ下がる道がありますね。あの深松のちょっと横のね。あこの道をもうちょっと利用して、町の職員が駐車場へ行くときには、あこ経由で行けばどうかとか、そういうことはできないのですか、ちょっとお伺いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

竹谷建設課長。

建設課長（竹谷俊範君） そういった職員等の通勤経路等である程度そういった解消ができるようなことがあれば、また病院サイドと話をしてそういった解消等に心がければいいかと思いますが、また病院のほうとも話等はしていきたいと思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） それと、私、ちょっと素人考えで考えられるのですけど、今病院へ入るあの正面から右折する迂回路のような道をつくったら、駐車場へ行く道がかなり緩和さ

れるんじゃないかと思えますけど、そういうことは病院の事務部長、考えられますか。それは、そういうことをやってもろたら都合悪いと言われればそれまでだけ。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

道用あさひ総合病院事務部長。

あさひ総合病院事務部長（道用慎一君） すみません、もう一度ちょっとお願いいたします。

10番（大森憲平君） 病院の正面へ入っていく道ありますね。あの道を今度右へ曲がってあの駐車場へ行くような道のつくり方をできないかということ、考えられんかということ、私、聞いたのです。

議長（水野仁士君） 道用あさひ総合病院事務部長。

あさひ総合病院事務部長（道用慎一君） 要するに、病院の敷地内を通過ということですね。

10番（大森憲平君） そういうことです。

あさひ総合病院事務部長（道用慎一君） できないことはないですが、あそこはかなり急な坂になっていますので、高低差が後ろの職員駐車場との間にはありますので、ちょっとそこはすぐには難しいかなと思いますが。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） もう1点、右側の民家との交渉をされたと言われましたけど、過去に何回ほど、「ここちょっとし、角、何かしてくれんか」ということを要望されたのですか。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

竹谷建設課長。

建設課長（竹谷俊範君） そのすみ切りの件につきましては、正直、私が認識しているところでは、その方とお話ししたということはまだございませんので、これからそういった形でちょっとお話等をさせていただければなという思いではございます。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） ぜひ隣の人にちょっと話をして、「見通しいいしたいがで、ちょっとこの角、何かできんか」ということを要望していただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それと、次に消雪装置。融雪装置というか消雪というか、正式な名前はちょっとわかりま

せんけど、これは最近よくあちこちでこうしていただいて本当に助かっておると思います。

ただ、私もこの間ちょっと伺ったのですが、今、当庁の横から桜町の方面へ上がっていく道が全然、交通量があだけ多いのに消雪装置がついていないわけですね。その理由はいろいろと何か伺いましたけど、今後どうなるのか、ちょっとお伺いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

竹谷建設課長。

建設課長（竹谷俊範君） 泊桜町線の、国道8号から桜町の交差点に向かう区間のことでございますが、この道路につきましては、幹線道路という形で交通量等も多いということで消雪等が必要な箇所というようなことにつきましては、私としても認識はしておりますのでございます。

今回、消防本署が役場横に来るといってもございまして、緊急車両等の出入りということを考えますと、やはり消雪はさらに必要な箇所ということは認識しておりますので、国道8号から公的施設、中学校の交差点までを今回消雪の設置ということで、来年度に向けて予算要求は建設課のほうではしたいというふうには思っております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） そうすると、サンリーナに入っていく道から向こうはまだ手つかずということですね。これは、できない理由というのはいろいろあると思いますが、早急にその先もやっていただきたいと思います。これも要望でございますので、よろしく願いいたします。

最後に、要旨(4)の林道の件でございますが、やはり先ほど課長言われたように、年2回清掃をしております。これ、本当ですか。私は2回もやっておられんと思うのですが、本当に2回やっておられるがですか。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

坂口農林水産課長。

農林水産課長（坂口弘文君） 私も11月にも確認しましたし、先日もまた見てきましたが、実施はしております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

大森議員。

10番（大森憲平君） 私の地区の高畠のことを言うがはちょっとおかしいのですが、あ

その朝日産業の横、ちょうど、ずっと上の曲がり角のほうですけど、あそこは本当に全然やっていないですよ。ほとんどもうヨシが生えておるくらいだから、年回2回やってヨシが生えるわけではないですよ。全然やっておられません。これ、やったと言われても、私、本当に不思議なくらいに思っています。

それから、ずっと上のほうへ行きますと、こういう完全な側溝じゃなしに、こう何かのり面が下がったような形のそういう側溝みたいがになっておりますけど、そこというのはほとんど上からの土砂というか、そういう崩れた物とか、先ほど課長が言われた落ち葉とかそういう物があって、本当に雨の多い日なんかというのは、あこは河原と一緒に、流れてきます。

やっぱりどうしても、流れてきた水が下へ落ちていくと、のり面が必ず崩れております。以前、二、三年前ですか、朝日産業の一番、入り口のあの角も、あこの水のためはかなり崩れて石積みをしていただいた経験もあります。やっぱりやるべきことはきちんとやっていたければと思いますので、これは要望にしてきますが、本当に2回やったというのなら、私、何も言いませんが、やはりどうしてもこういうところというのは、災害とかいろんな問題が起きますので、よろしく願いいたします。

以上をもちまして私の質問を終わります。

どうも、いろいろありがとうございました。

[【西岡議員の質問へ移る】](#)

.....

議長（水野仁士君） どうもご苦労さまでした。

次に、グループ22代表、西岡良則君。

〔6番 西岡良則君 登壇〕

6番（西岡良則君） 皆さん、こんにちは。6番の西岡です。

平日の大変お忙しい中、傍聴に来ていただきました皆様方に対しまして、心から感謝と御礼を申し上げたいと思っております。まことにありがとうございます。

それでは、平成27年第8回朝日町議会定例会におきまして、ただいま議長のお許しを得ましたので、本日最後の代表質問となりますが、グループ22を代表して質問をさせていただきます。

師走に入り、荘厳にそびえたつ白馬岳、朝日岳など北アルプスの峰々もすっかり雪化粧をし、ことしも残すところ、あとわずかとなりました。富山県内では、ここ数日は高気圧に覆われ、気温も各地でほぼ平年並みの穏やかな日が続いていますが、深刻な大気汚染が続く中国・北京ではPM2.5の濃度が高まったことを受け、企業の生産や交通を規制する最も厳しい「赤色警報」が初めて発令されるなど、北陸地方へ飛来の影響が危惧されております。

また、ことしは、構想から半世紀、北陸にとっては長年の夢であった北陸新幹線が幾多の紆余曲折を経て、3月14日に開業いたしました。開業は、まさに北陸における新時代の幕あけであり、観光振興・交流人口の拡大による景気回復の起爆剤となっております。

一方、国では安倍内閣が、金融緩和、財政出動、成長戦略の「3本の矢」の経済政策に引き続き、希望を生み出す強い経済、夢をつむぐ子育て支援、安心につながる社会保障の「新3本の矢」の実現を目的とした「1億総活躍社会」に向けたプランを打ち出しました。

そうした中、朝日町においても、第5次朝日町総合計画、朝日町総合戦略の策定、朝日町再生会議における提言など、朝日町の将来像としての「夢と希望が持てるまちづくり」に向けた目標や施策の策定及び提言がなされております。

これらの計画や提言が確実に実行され、5年後、10年後の朝日町のさらなる発展につながることをご期待申し上げ、さきに通告してあります4件・7要旨について質問をさせていただきます。

初めに、平成28年度予算編成と町政運営についてお伺いをいたします。

1点目は、第5次朝日町総合計画の策定と予算編成についてであります。

朝日町における第4次総合計画では、「人と自然、心と心、ふれあうまち“あさひ”」を将来像として、各種インフラ整備や産業振興、教育や医療・福祉施設の充実など、積極的に推進してこられたところであります。第4次総合計画の策定から10年が経過し、その間、朝日町を取り巻く環境や社会情勢は急激な少子高齢化や人口減少の進展などにより大きく変化するとともに多くの課題が山積いたしております。

朝日町がこれからも活力ある持続的な発展を遂げていくためには、町民一人一人が町や地域に対する誇りと魅力を見つめ直し、夢と希望を高めていくことが重要であります。このことから、第5次総合計画では、目指すまちづくりを「夢と希望が持てるまちづくり 朝日町」と定め、将来像の実現を図るため、子育て・教育対策として「町の『宝』を守り育てる環境づくり」、健康・福祉対策では「いつまでも元気で笑顔を保つ地域づくり」、また産業振興対策では「町の活力を生み出す取り組み」、観光・交流対策では「地域の魅力を高める取り組み」、定住対策では「町の良さを理解し愛される風土をつくる」、また安全・安心対策では「町民の暮らし・生命を守る地域づくり」、生活基盤対策としては「心地よい暮らしを支える施設の充実」など7つの柱に基づき、まちづくりを進めていくとの考えであります。

計画を実行するには中期・長期的なものもありますが、新年度にはどのような事業から取り組んでいかれる所存なのか、また予算対応についてもお伺いをいたします。

次に、朝日町総合戦略の策定と予算編成についてお尋ねをいたします。

2008年に始まった日本国内の人口減少が今後も加速的に進展することにより、国民の消費や経済力の低下が日本の経済社会に対して大きな重荷になってくると言われております。まち・ひと・しごと創生は、人口減少に歯どめをかけ、2060年には日本国内において1億人程度の人口確保と地方創生を合わせて行うことにより、国民の希望を実現し、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目指すものであります。

朝日町総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づいて、朝日町人口ビジョンを踏まえながら、朝日町の創生に向けた目標や施策の基本的方向と具体的な施策をまとめられたものであります。

基本目標として、1点目には、町に仕事をつくる、町の価値を生み出す。2点目には、町への人の流れをつくる。3点目には、若者の結婚・出産・子育てを応援する。4点目は、時代に合った地域づくりを進めるとしており、来年度から取り組まれる施策の基本的な方向性

や主な事業及び予算編成についてお伺いをいたします。

【答弁：町長】

.....

続いて、2件目の質問は、朝日町の活性化対策についてであります。

最初に、朝日町再生会議からの提言についてお伺いをいたします。

「夢と希望が持てるまちづくり」を目指し、町民の町づくり意識の醸成や町民への情報の発信を行うとともに、町が抱えている課題について幅広く議論をすることを目的とした朝日町再生会議は、ことしの1月末から10月まで12回という長期間にわたり開催されました。

会議では、毎回朝日町の将来を展望した熱心で活発な議論がなされ、働くお母さんを“日本一”応援する事業、U・Iターン向け促進住宅事業、「朝日町ふるさと応援団」人材バンク事業、朝日町出前授業プロジェクト、ふるさと奨学基金事業、朝日町6次産業化構想、泊駅・越中宮崎駅及び駅周辺の魅力アップ事業、若者ダッシュ力支援事業、朝日町の自然等を見つめ直し魅力を再発見、観光客を迎える環境整備、特産品開発のプロジェクトチームの発足など11項目にわたり、町への愛情を持ったすばらしい提案や朝日町の将来に向けての方向性が提言されております。この再生会議に応募参加されました委員の皆様や提言のとりまとめに当たった町職員のご苦労に対し、心から敬意と感謝を申し上げます。

委員からは、この提言が、朝日町が策定した朝日町総合戦略や平成28年度からスタートする第5次朝日町総合計画にも反映されることが望まれております。町当局の対応とお考えをお伺いいたします。

次に、町有公共施設の有効活用についてお尋ねをいたします。

朝日町における公共施設の有効活用については、庁舎内で組織されております公共施設のあり方検討委員会において、さまざまな観点から有効な活用の方法が検討されているとのこととあります。公共施設を単に取り壊して新しい箱物をつくるという方策だけでなく、施設によっては現況のまま改修、整備拡充をすることにより、今まで以上の効果を発揮する施設もあると思われれます。9月の定例議会終了後、議員と町当局が小丸山グラウンド、棚山ファミリーランド、福祉センター体育館、児童館・保健センター、総合体育館格技室などの現況を視察し、大変勉強になったものであります。

私どもも公共施設の有効活用について提案をしまいいりますが、その他の公共施設も含め、見直しと有効活用について町当局のお考えをお伺いいたします。

3点目は、五差路周辺複合施設の運営と対策についてお尋ねいたします。

泊中心市街地は、後継者不足などから廃業・休業をする商店が多く、シャッター街化が進み中心市街地としての活気が失われるなど、空洞化が問題となっております。

町では、五差路周辺複合施設を中心とした「商業・賑わい・ふれあいゾーン」、新図書館・

明治記念館を拠点とした「教育・文化・うるおいゾーン」、福祉センターを再整備し「リフレッシュ・レクリエーションゾーン」と位置づけ、泊市街地におけるまちづくりを推進してこられたところであります。

昨年末の新図書館・明治記念館の完成に続き、6月28日には五差路周辺複合施設「とやま朝日町北陸街道 五叉路 Cross Five」がオープンし、泊中心市街地にも少しずつではありますが、賑わいが戻りつつあるように見受けられます。

この複合施設は、買い物支援コーナーとしての施設だけではなく、朝日町商工会、朝日町社会福祉協議会、泊地区自治振興会の3団体が入居し、建設された施設の大部分をこの3団体で使用するとともに、施設の管理運営については、朝日町商工会が指定管理者として担っていただいているところであります。

施設のオープンから6カ月近くが経過いたしますが、株式会社まめなけ市場によって運営されている買い物支援スペースにおける生鮮食料品や地場産の野菜、日用品の販売に対するお客の入り込み状況や施設管理において支障や問題点などがないか。また、今後の運営に対する町としての方策やお考えをお尋ねいたします。

【答弁：企画政策室長】

.....

次に、3件目の教育振興についての泊高校の存続についてお伺いをいたします。

富山県では、中学校の卒業予定者が急激に減少すると見込まれることから、県立学校整備のあり方等に関する検討委員会を設置し、中長期の視点に立った高校再編に向けた検討・協議がなされております。朝日町における唯一の高等教育機関である泊高校の存続は、町の経済はもとより、町づくりの根幹にかかわる問題であると捉えております。そうした中、朝日町では、泊高校の将来を考える町民会議を創設し、存続に向けて検討・協議をしてまいりました。

このたび、存続を求める署名活動を実施し、朝日町民はもとより、泊高校同窓会、泊高校生の主な就職先の企業、新川地域の各自治体などから2万九千余名の温かい署名が寄せられました。署名をいただきました多くの皆様に感謝と御礼を申し上げたいと思います。

この署名は泊高校存続の要望書とともに県知事に提出をいたしますが、存続に当たっては、泊高校が県立高校であっても、朝日町としての存続に向けた取り組みや支援が必要であります。町として、対応や取り組みについてお伺いをいたします。

【答弁：副町長】

.....

最後の質問になりますが、件名4の漁業の経営安定化と観光振興についての、小川サケ有効利用調査の成果と来年度に向けての取り組みについてお聞きいたします。

小川はサケのふ化事業河川であります。河川でのサケ釣りは法律により全面的に禁止されております。今年度、小川が全国で14番目となる採捕許可を受けたことにより、10月10日から11月10日までの1カ月間、釣りによる調査期間を設け、サケの増殖事業を妨げない範囲でサケを利用した食材の検討や遡上するサケの体調測定などの資料収集を目的とした小川サケ有効利用調査として、サケ釣りのだいが味が楽しめるようになりました。このことは、NHK総合テレビでも放映されるなど反響も大きく、町内外で話題となっております。

今後ともこの事業を継続していくことにより、内水面漁協の経営安定化はもとより、県内外から多くの釣り客が朝日町を訪れることにより、宿泊客の増加による観光振興や漁業振興、ひいては町の活性化にもつながるものと期待をしているところであります。

そのためには、今年度の成果と課題を検証し、来年度に向けた準備と対策が必要であります。町当局の取り組みについてお尋ねをし、私の代表質問を終わらせていただきます。

【答弁：農林水産課長】

町当局の簡潔で明瞭なご答弁をお願いいたします。

どうもありがとうございました。

【以上、西岡議員の代表質問に対する町長答弁】

.....

議長（水野仁士君） この際、暫時休憩をいたします。休憩時間は約10分間とし、午後 2 時 25分から再開をいたします。

（午後 2 時 1 3 分）

〔休憩中〕

（午後 2 時 2 5 分）

.....

議長（水野仁士君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほどのグループ22代表、西岡良則君の質問に対する答弁を求めます。

笹原町長。

〔町長 笹原靖直君 登壇〕

町長（笹原靖直君） それでは、グループ22代表質問、西岡良則議員の件名1、平成28年度予算編成と町政運営について、要旨(1)、(2)を私のほうからお答えさせていただきます。

朝日町では、昭和48年より、その時代ごとの潮流や志向を捉えたまちづくりの指針である総合計画を策定してまいりました。現在は、平成18年度から27年度の10年間を計画期間とする第4次朝日町総合計画において諸施策を積極的に進めております。

第4次計画から10年が経過し、朝日町を取り巻く社会経済情勢も大きく変化し、少子高齢化や人口減少を初めとする課題が山積する中、朝日町がこれからも持続的な発展を遂げていくためには、町民一人一人の我が町や地域に対する誇りと夢や希望を高めていくことが何より重要であると考えております。そのような考えから、平成28年度から平成37年度までの10年間を計画期間とする第5次朝日町総合計画をスタートさせることとしており、現在、その策定作業を進めております。

第5次総合計画におきましては、目指すべき将来像と基本目標、まちづくりの柱を示す基本構想を策定することとしております。これまでも全員協議会や総合計画・総合戦略の合同審議会でお示ししてきたところではありますが、基本構想には、公約としても掲げております「夢と希望が持てるまちづくり」を将来像とし、次の7つの基本目標、1つ目として子育て・教育「町の『宝』を守り育てる」、2つ目として健康・福祉「いつまでも元気で笑顔を保つ」、3つ目として産業振興「町の活力を生み出す」、4つ目として観光・交流「地域の魅力を高める」、5つ目として定住「町の良さを理解し愛される風土をつくる」、6つ目として安全・安心「町民の暮らし・生命を守る」、7つ目として生活基盤「心地よい暮らしを支える」、いわゆる、これらまちづくりの柱を軸として計画を策定することとしております。

そのため、これら7つの柱を掲げる重点施策につきましては、その効果や優先度を十分議論し、新年度予算にも反映し、取り組んでまいりたいと考えております。

次に、朝日町総合戦略についてのご質問にお答えします。

国では、平成26年11月21日に地方創生関連2法案（まち・ひと・しごと創生法及び地方再生法の一部を改正する法律）が成立し、同年12月27日に「まち・ひと・しごと創生『長期ビジョン』及び『総合戦略』」が閣議決定され、総合戦略が策定されました。その流れを受け、

朝日町では、朝日町人口ビジョンを踏まえつつ、地域特性や強みを生かしながら、人口減少対策に重点を置いた「ひとづくり」「しごとづくり」、そして「地域づくり」を推進する計画として、朝日町総合戦略を本年10月に策定いたしました。

この総合戦略は、平成27年度から平成31年度までの5年間を計画期間とし、総合計画・総合戦略の合同審議会においていただいた意見・審議、朝日町再生会議からの提言内容も盛り込んだところであり、現在策定中の第5次朝日町総合計画における主に産業振興、移住・定住対策、子育て支援等の施策・事業との整合を図りながら、4つの基本目標を掲げ、町の創生に向けた目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたところでもあります。

平成28年度から取り組む施策の基本的な方向や主な事業及び予算に関するご質問ですが、ご案内のとおり、総合戦略には4つの基本目標を掲げております。

まず、基本目標の1つ、「町に仕事をつくる、町の価値を生み出す」におきましては、雇用の受け皿となる農林漁業の活性化、観光の基盤産業化、産業の集積と新産業の展開、起業・就業の支援を基本的方向とし、農林漁業の6次産業化・農商工連携事業の支援や土産・特産品づくり、ヒスイ海岸周辺整備事業、企業誘致体制の強化、起業に対する支援の充実など関連施策に取り組んでまいります。

次に、基本目標2の「町への人の流れをつくる、町に人を呼び込む」では、町の魅力のアピール強化、転入者が安心できる受け入れ体制の充実、そして戻ってきたくなる、移り住みたくなる環境の整備を基本的方向として掲げ、移住関連情報の充実、お試し移住体験の推進、移住希望者への仕事・暮らし情報の提供と相談支援などに取り組めます。

基本目標3の「若者の結婚・出産・子育てを応援する」では、基本的方向を安心して結婚・出産できる環境づくり、子育て支援と教育の充実とし、若者の出会い・交流の支援や病児・病後児保育、医療費助成事業などにしっかり取り組み、切れ目のない、日本一の子育て支援を目指して各種事業を実施してまいります。

最後に、基本目標4の「時代に合った地域づくりを進める」におきましては、地域の生活サービス機能の維持及び地域コミュニティの活性化に関し、既存公共交通の充実や地域住民と行政との協働の推進、再生会議の継続的な実施などに取り組んでまいりたいと考えています。

平成28年度予算は、現在編成作業を行っているところではありますが、主な重点事業としては、日本一を目指した子育て支援事業の拡充、空き家対策を含めた定住サポート事業の拡充、3つ目として新規担い手農業者の育成事業や米を含めた地域ブランド構築事業、4つ

目として公共施設及び町有地等の利用計画などを現段階で検討しているところであります。

いずれにいたしましても、これらの計画策定は事業展開するためのスタートラインであり、両計画を効果的、継続的に推進していくためには、町民の主体的な行動と参加が不可欠です。一人一人が町や地域の魅力を改めて見つめ直し、磨きをかけ、その魅力の発信と活用を増大させていくことが重要であり、夢と希望を育みながら、町民の皆さんが参加し、町民一人一人が活躍するまちづくりこそが朝日町の未来を切り開くものと考えております。議会、町民の皆さんの英知を結集した「オール朝日町」の体制や取り組みによって、第5次総合計画の将来像に掲げた「夢と希望が持てるまちづくり」の実現に向けて前進してまいりたいと考えております。

私からは以上であります。

[【質問：件名1に戻る】](#)

[【各担当者の答弁へ移る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 次に、件名2、朝日町の活性化対策についての要旨(1)から要旨(3)までを、小杉企画政策室長。

〔企画政策室長 小杉嘉博君 登壇〕

企画政策室長（小杉嘉博君） それでは、私のほうから、件名2、要旨(1)、朝日町再生会議からの提言についてお答えをいたします。

朝日町再生会議につきましては、平成27年1月29日に発足いたしまして、去る10月29日に提言書をいただいたところでございます。この間、12回もの熱心で真剣かつ前向きな提案と実行に向けての議論と協議が重ねられてまいりました。

いただいた提言内容を拝見いたしますと、議員よりご紹介があったとおり、働くお母さんを“日本一”応援する事業や朝日町6次産業化構想など、朝日町を真に再生するために必要と考えられたものばかりでございます。

朝日町再生会議からの提言が朝日町総合戦略や第5次朝日町総合計画にどのように反映されているかというご質問であります。町といたしましても、再生会議からの提言は大変重みのあるものであると認識をしております。この提言事業につきましては、着実に推進をしてまいりたいと考えております。

このことから、本年10月に策定した朝日町総合戦略には、再生会議からの提言を随所に盛り込んだところでございます。

提言内容の総合戦略への反映をご紹介いたしますと、まず働くお母さんを“日本一”応援する事業につきましては、総合戦略の基本目標1、「町に仕事をつくる、町の価値を生み出す」における働きたい女性や高齢者の就業支援や、基本目標3にあります「若者の結婚・出産・子育てを応援する」の中の妊娠・出産・子育てにおける連携システムの構築、また子育て応援企業の拡大や子育て広場・母親の交流の場の充実などとして反映しているところであり、切れ目のない、日本一の子育て支援を目指して事業の実施に当たってまいりたいと考えております。

また、朝日町6次産業化構想につきましては、基本目標の1番の農林漁業の6次産業化・農商工連携事業の支援、また地域ブランド構築事業として盛り込んだところでございます。

また、U・Iターン向けの促進住宅事業につきましては、基本目標2の中の「町への人の流れをつくる、町に人を呼び込む」という中で、お試し移住体験の推進やU・I・Jターン採用の企業に対する助成といったものもやりまして、さらには泊駅、越中宮崎駅及び駅周辺の魅力アップ事業については、基本目標1の泊駅及び駅周辺の魅力アップ及びヒスイ海岸周

辺整備事業として反映をしているところでございます。このほかにもたくさん提言がござい
ますが、総合戦略の中に盛り込んでいるところでございます。

なお、再生会議と第5次朝日町総合計画の関係性及び提言内容の反映について申し上げますと、総合戦略が総合計画における特に人口減少対策に重点を置いたものでございまして、主に産業振興、移住・定住対策、子育て支援等の施策・事業であることから、再生会議の提言内容については、当然総合計画の中にも包括されるものでございます。

再生会議からは、「提言は、単に提言にとどまることなく、実践をし、成功させることに意義がある」という心強い決意をお聞きしております。

町といたしましても、「ここまでやらなければ、町は変わらない」「朝日町を再生するんだ」という総合戦略の目指す基本コンセプトとしておりまして、町長が言います「変えるんです“朝日町”」をキャッチフレーズに掲げまして、まちづくりに取り組んでまいります。そして、再生会議からの提言を反映した総合戦略及び総合計画を推進し、着実に成果を上げてまいりたいと考えております。

続きまして、2点目の町有公共施設の有効活用についてお答えいたします。

町の土地利用も含めた公共施設の活用につきましては、朝日町役場庁内で組織しております公共施設のあり方検討委員会において、各部署の所管しております公共施設の現状と課題を把握し、所管している公共施設の今後のあり方について検証を行っているところであります。

そうした中、9月の定例会終了後に、議員の皆様方と、あさひ福祉センター、体育館の格技室、児童館・保健センター並びに小丸山グラウンド、基幹集落センターなどの町として検討が必要な公共施設について視察を行ったところであります。

町では、この現在7施設について、まちづくりの観点から優先度の高い施設について検討を行っているところであります。

現在検討をしております優先度の高い施設といたしましては、泊市街部のまちづくり施策のリフレッシュ・レクリエーションゾーンと位置づけしております福祉センターの再整備がございますが、この福祉センターを取り壊して、体育館のみを改修するという案、またもう1つの案として、全て取り壊して体育館を新築すると、そういう案についても検討を行っているところであります。

また、サンリーナのほうにあります体育館の格技室につきましては、その施設が手狭になっているということもありまして、施設の拡充も視野に入れながら、どうしていけばいいか

ということを検討しているところであります。

また、旧下澤産業跡地と旧の町営プールの跡地につきましては、現在、中心市街地活性化土地利用計画策定業務におきまして検討しているところであります。平柳地区、一部月山も含まれますけれども、朝日町泊駅南土地地区画整理事業などとの関連もあるということから、来年度、平成28年度中に中心市街地の全体構想を固めてまいりたいと考えております。

その他の施設など町の公共施設のあり方については、今後の公共施設の有効活用や再編、統合など、町全体の将来展望を見据えた公共施設や土地利用となるよう、議員各位とも相談しながら検討してまいりたいと考えております。

続きまして、要旨(3)の五差路周辺複合施設の運営と対策についてであります。

泊市街部は、後継者不足等から廃業・休業する商店が多くなりまして、市街部の空洞化が問題となっております。また、高齢者の交通手段の確保が難しいことから、日常生活の買い物に支障を来し、その対策が課題となっております。

そのため、泊市街部の活性化は町の重要な政策の1つであり、泊市街部の賑わいを取り戻すための拠点づくりが不可欠であると考えて、五差路周辺複合施設を拠点といたします「商業・賑わい・ふれあいゾーン」、また新しい図書館を核といたしました「教育・文化・うるおいゾーン」、そして、さきにも述べました福祉センターの再整備によります「リフレッシュ・レクリエーションゾーン」の3つのゾーンの整備を柱とした泊市街部のまちづくりの施策を進めているところであります。

6月28日にオープンいたしました五差路周辺複合施設につきましては、朝日町商工会、朝日町社会福祉協議会、そして泊地区自治振興会の3団体が入居いたしまして、朝日町商工会が指定管理者として、施設全体の管理・運営を行っております。

施設の概要につきましては、先ほど述べました商工会、社会福祉協議会、自治振興会、この入居されておられます3団体の事務スペースを初めとして、そのほか、施設の大部分を占めます町民の賑わい・ふれあいの核となる会議室が2室、研修室が3室、和室が1室、その他にイベント広場とふれあい広場が整備しております。

また、その建物の中にございます商業振興、また買い物支援対策のために、建物の一部、これが全体面積の1割程度、12%程度でありますけれども、通称「まめなけ市場」という買い物支援スペースがございます。このまめなけ市場につきましては、指定管理者であります朝日町商工会から再委託を受けまして、株式会社まめなけ市場がその企画・運営を行い、鮮魚などの生鮮食料品や地場産野菜、特産品、日常生活必需品を中心に販売を行っているところ

るであります。

会議室の利用状況につきましては、11月末時点の5カ月間でございますが、延べ284団体、約4,000人の利用があったところであります。そのほかに、イベント広場での「まめなけマルシェ」、泊の自治振興会が主催されました「オータムフェスタ in 五叉路」、また先般開催されました「樽だしボジョレーヌーボー祭」や「はしご酒ラリー」といったもの、また「みんなでクリスマス」といったようなイベントが行われまして、またふれあい広場では写真展、絵手紙展、赤い羽根募金貯金箱展などが開催されまして、多くの方々が来場され、徐々にではありますが、人の流れと賑やかさが出ているものというふう感じております。

議員ご質問の買い物支援スペース、名称「まめなけ市場」でございますが、この入り込み客数につきましては、11月末時点の5カ月間で約1万8,100人の販売客数となっております。買い物支援スペースにつきましては、そこに納入される出品者の売り上げに対する販売手数料により運営されておりまして、現在、株式会社まめなけ市場が当初に見込んでいた売り上げ目標には届いていない状況であるというふう伺っております。

そうした状況も踏まえまして、株式会社まめなけ市場では、指定管理者である朝日町商工会のご協力も得ながら、毎週行っております特売のチラシ入れとか朝市の開催といったもの、また売上増に向けた取り組みといったものも行われておりまして、さらなる運営強化に鋭意努力されているところであります。

先日、指定管理者である朝日町商工会の会長さんと事務局長さん、そして株式会社まめなけ市場の社長さんと3名が朝日町役場のほうに来庁されまして、町長も含め会談を持たせていただきました。その中で、五差路周辺複合施設の利用状況、特にその中でも買い物支援スペース、まめなけ市場の運営状況と今後の取り組み等について意見交換をさせていただいたところであります。

その中で、施設の運営に当たりまして、買い物支援スペースを含めたこの施設を生かしていくために、株式会社まめなけ市場が会社のさらなる自助努力に努めていくということ、また指定管理者である朝日町商工会が、指定管理者として建物全体の運営も含めまして、株式会社まめなけ市場と連携・協力をして進めていくということを改めて再確認したところでございます。

以上でございます。

[【質問：件名2に戻る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 次に、件名3、教育の振興についてを、金島副町長。

〔副町長 金島光一君 登壇〕

副町長（金島光一君） 私から、件名3、教育の振興について、要旨(1)、泊高校の存続についてお答えをいたします。

昨年12月に設立された泊高校の将来を考える町民会議には、西岡議員にも参画いただいておりますが、関係団体から選出された委員で構成する町民主導の組織として、これまで計5回開催してまいりました。

この町民会議が主体となって実施いたしました泊高校の存続を求める署名活動も、各自治振興会の皆様のご協力を得て、町内各世帯からいただきました1万3,424名分を初め、最終的に町内外から総数2万9,376名の方々からご賛同をいただき、来月1月19日に県知事、県教育長へ要望活動を実施することとしております。

県への要望に当たっては、朝日町にとって唯一の県立高校である泊高校の重要性を訴えることはもちろん、魅力的な高校づくりが地方創生を実現するとの認識のもと、高校は県の管轄であるとの思考から脱却し、地域総がかりで泊高校と泊高校生を支援していく具体的な地元としての取り組み、地元としての覚悟を示した上で、泊高校の存続を強く訴えかけてまいりたいと考えております。

11月10日に開催されました第5回町民会議においては、1つ目に特色ある泊高校づくり、2つ目に地域から愛される泊高校づくり、3つ目に入学希望者を増やすPR等の強化の3つの柱立てで、泊高校自体が取り組むこと、朝日町が支援する内容に分けてご議論いただきました。会議の中では、特に観光ビジネスコースの充実、中高連携交流事業の強化、部活動の活性化、キャリア教育と進学に対する保障が重要であるとの意見が多く出されたところであります。

現在、泊高校において、町からの具体的な支援内容について検討いただいているところであり、泊高校からの意見等も踏まえ、来年度予算に反映させてまいりたいと考えております。

また、町として泊高校を支援する体制を整える必要があると考えており、例えば役場内に泊高校担当チームを発足させることや泊高校の魅力化に向けた継続的な取り組みを推進できるよう、現在の「泊高校の将来を考える町民会議」を発展させた、例えば「泊高校の魅力化・活性化推進会議」といった組織につなげてまいりたいと考えているところであります。

以上でございます。

【質問：件名3に戻る】

議長（水野仁士君） 次に、件名4、漁業の経営安定化と観光振興についてを、坂口農林水産課長。

〔農林水産課長 坂口弘文君 登壇〕

農林水産課長（坂口弘文君） 私のほうからは、件名4、漁業の経営安定化と観光振興についての要旨(1)、小川サケ有効利用調査の成果と来年度に向けての取り組みについてお答えをいたします。

小川のサケ有効利用調査につきましては、朝日内水面漁業協同組合を中心に、公益社団法人日本釣振興会富山県支部や地元観光関係者、河川管理者、町などで構成する小川サケ有効利用調査委員会が、内水面漁業の振興と町内の観光振興を目的として、本年10月10日から11月10日までの約1カ月間実施したもので、水産資源保護法で禁止されているシロサケの捕獲を、1日10名までの調査員を決めて、調査を目的に県の捕獲許可を得て行ったものであります。

実施結果につきましては、事業主体の中心であります朝日内水面漁業協同組合に確認をいたしましたところ、参加者は、延べ人数で191名、町内を含む県内からは50名、県外からは141名でありました。

また、町では調査員を対象として1日2,000円の宿泊助成を行いました。29名の方がその助成を活用して町内の宿泊施設を利用されております。

また、調査後に提出される調査書を確認させていただくと、「とてもよかった」「来年もぜひ来たいと思う」との回答が多く寄せられております。

一方、課題といたしましては、本年は初めての取り組みということもあり、組織の立ち上げやルールづくりなどに時間を要し、募集期間が短く周知不足だったため、定員に達しなかったことが挙げられます。

このことから、来年度は募集開始を早め、募集期間を長くして広く周知を図ってまいりたいと考えております。

また、宿泊助成についても一定の成果があったと考えておりますが、県内の他の市・町のホテルに宿泊された方もおられたことから、周知が図られれば、さらに増加が期待でき、今後も継続して実施してまいりたいと考えております。

今年度初めての試みでしたが、朝日内水面漁業協同組合では手応えを感じておられます。町といたしましても、次年度からの継続に向け、一体となって支援してまいりたいと考えております。

以上です。

[【質問：件名4に戻る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 西岡議員、ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） ありがとうございます。

それでは、再質問をさせていただきます。

第5次朝日町総合計画、それから総合戦略、それから朝日町再生会議からの提言というのは、一体といいますか、どちらかにまじっておりますので、あっちへ行ったり、こっちへ行ったりするかもしれませんけれども、よろしく願いをいたしたいと思います。

まず、第5次朝日町総合計画についてですが、第5次総合計画では、平成28年度、来年度予算ですが、から取り組みが必要なものと、それこそ5年後、10年後を見据えた中期・長期的なものがあるかと思っております。

まずは、来年度から取り組むものとして、私は懸案事項であります少子高齢化と人口減少に歯どめをかけることが一番重要ではないかと思っておりますが、いろんな政策を挙げておられますが、どういった点に重点を置かれながらこの少子高齢化、そしてまた人口減少に歯どめをかけていくのか、1丁目1番地といいますか、これからやっていきたいんだというものがあれば、お伺いしたいと思います。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

笹原町長。

町長（笹原靖直君） 西岡議員の言われる1丁目1番地、もちろん私は、いろんなことを、1つさえやればそういった少子高齢化と人口減少というものがうまくいくというふうには全く思ってはいません。そういった中では、当然、私の公約でありました子育て支援という部門において、拡充に向けて取り組みたいということであると思えます。

もともと私の基本の中には、こういった私とこのような大きさの町は、常日ごろ言うように2つの柱、高齢者の方々が安心して暮らせるまちづくりと、もう1つは子どもを生み育てやすい環境づくり、これをやはりセットで進めていかねばならないだろうということでもあります。そして、もう1つ大事なものは、やはり皆さんの雰囲気、マインドというか、が変わればいいなというふうには。私が言ったことを着実にやっていくということも、町が動き出したということも、これも非常に大事なことはないかなというふうに思っています。

そういった意味では、保育料の軽減に議員の皆様方のご理解を得て前倒しできたということも、これも結果の1つではないかというふうに思っていますが、今定例会でも出していますが、新年度から、28年度から始めたいと思っております高校生までの医療費の完全無料化も

そういった施策の1つではないかというふうに思っております。

そしてまた、企業誘致やいろんな形の中で、やはり今まで企業誘致等々の施策に町は本腰ではなかったというふうに私は思っているわけでありまして。本格的に誘致するための、そういったシステムを構築するのも、これも大事な施策の1つではないかなというふうに思っているわけでありまして。

そういった中では、やはり優先順位の中でやれるものは着実にやり、そして複合的にやらなければ、これ1つだけでいいというものではないというふうに思っている中で、今幾つか挙がっている、あるいは再生会議から挙がっている、できるものから順次やっていこうという気概でいます。

皆様方のご提言を受ければ、今ちょうどそういった予算編成、優先順位をつける段階でありますので、また議員のほうから提言等々があれば、織り込まれるものは織り込んでまいりたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） ありがとうございます。

1つだけやれば少子高齢化と人口減少に歯どめをかけることができるということではありません。やはり総合的にいろんな政策を関連させながらやっていかないとだめかと思っておりますので、そのへんしっかりと捉えながらやっていただきたいと思っております。

そういった中で、ちょっと細かい点になりますが、例えば子育て・教育、町の「宝」を守り育てるにおける、これについては、地域で長年養われてきた歴史や文化を大切にしたい個性あるまちづくりと、こうしておられますが、この個性あるまちづくりというのは、どういったことをしていられる予定なのか、わかればお聞かせください。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

笹原町長。

町長（笹原靖直君） 朝日町はやっぱり文化と歴史の町だというふうに思っております。個性あるとは、ある意味では、町のこの持っている観光資源やいろんなものをオリジナルに生かしていくことが、それが大事ではないかというふうに思っています。

入善、黒部と同じ方向で同じようにやるのではなく、朝日町のそういった文化、歴史というものに関して磨きをかけながらオリジナルな施策を打ち出すことが何よりではないかなというふうに思っていますので、よろしく願いいたします。ご理解を賜りたいと思います。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） やはり地域がしっかりして子育てをできるような環境づくりが大切かと思っております。そのためには、もちろん自治振興会の皆さん方のお力添えも得なきゃならんわけですが、町と一体となってやっていただければありがたいと思っております。

それから、健康・福祉のほうですが、気づきと配慮、見守り、支え合いなど気持ちの通った地域、福祉を進めると。これも自治振興会とタイアップしながらやっていかなければならないわけですが、少子高齢化が進んでおりますけれども、町を見ますと、児童クラブが減少いたしております。それから、もっとびっくりするのは、高齢者がたくさんおられるのに、増えてきているのに、老人クラブが減少している。それから、もう以前からですが、青年団、それから婦人の組織が、ないとは言いませんが、少なくなってきたと。

やはりそういったところに観点を置きながら地域と一体となってやっていかないと、なかなか朝日町が活性化していかないと思うのですが、そのへんをいかにお考えか伺いたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

笹原町長。

町長（笹原靖直君） まさしく地域コミュニティーというのは、非常に大事なんだろうなと思っております。その地域のコミュニティー、それこそきょうは自治振興会の皆様がお見えになっておりますが、笹川地区を筆頭に今、泊2区の大谷自治振興会長を初め、今年度は新しく各地区のポスター等をつくり、本当に精力的に行っているのは心強い限りであります。

まさしくそういった各地区が元気になるということが非常に大事なことだろうというふうに思っています。そういう意味では、西岡議員ご指摘のとおり、やはり町とともに連携をしていくということが何より大事なことだというふうに思っています。

今、私どもは「オール朝日町」というふうに言っているのは、もうこういつたときには、本当に町民の皆さんと一丸でやらなければならないということだというふうに思っていますし、しっかりとした大人の議論をして、どうあるべきかという観点から議論をしてみたいというふうに思っております。

いろんな各種団体のことがありましたが、実は高齢者、いきいき連合会のほうからも要望がありました、事務局を何とかしてくれないかということに関しては、新年度から社会福祉

のほうをお願いをして、手を与えて、事務局サイドで仕事をしていただくことによって、いきいき連合会のほうでは喜ばれているような現状があります。

そのように、町が何らかの形でかかわっていくということも大事なことはないかなというふうに思っていますが、そういった流れの中で、皆様方の、あるいは自治振興会等々いろんな方々の、どういう形で町がサポートしていくことによって地域が、そしてコミュニティが活性化できるかということも大事な視点ではないかなというふうに思っております。

今議会中にも自治振興会等の皆様と意見交換する場もありますし、そういった踏み込んだ中で地域が活力に、そしてやりやすい体制というものをともに検討しながら支えていきたいというふうに思っていますので、よろしく願いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） ありがとうございます。

それでは、第5次総合計画におけます予算的なものとしてハード・ソフト的なものがあるわけですが、過疎債の活用について、財務課長、何かこう、こういった方向で進めていく予定なのか、わかる範囲で結構ですからお答えください。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

大村財務課長。

財務課長（大村 浩君） 今ほど過疎債についてのお話がありました。毎年職員たちとは、この予算編成時期には、皆さんにもご承知されていますが、大変有利な財源です、7割を国がみってくれるということで。ただ、その場合でも、やはり3割は町の今年度の負担になるということで、いろんな施策をやらなきゃいけないのですけれども、そういった負担についても十分考慮した上で、先ほど、結論とすれば、町長が言っておられますように、どの事業から優先的にやっていくか、その順位づけがやっぱり重要かなと思っています。

過疎債の、全国に何千億という枠があるのですけれども、単純平均しますと、1つの団体自身は大体4億円なんですね。ということを見ますと、過去にというか、近い過去ですけれども、町が図書館とか、今ほど話がありました五差路周辺複合施設、そういった整備については満額の十数億の財源をいただいていると。これは、皆さん、議員さんも町長も、県なり国にいろんな要望活動をしていただいたおかげだと思っていますし、毎年そういった過疎債を活用できるわけではないのですけれども、当然そういったときは計画性を持って、つまり年度の初めに、こういった事業をやるためにこういった申請をしますよという形で上げてい

かないと、後になると、補正予算を組むとなかなかその対象になってもならないという可能性があるものですから、そういうところを大事にしていかなきゃいけないということを考えています。

いずれにしましても、ただいま予算編成の段階ですので、町長といろんな事業について、町が取り組みたい事業、本当に、優先事業をどこからやっていくか、そういうことを今重点的に詰めている最中であります。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） ありがとうございます。

ハードのものはわかりやすいかと思いますが、特に人、ソフトのものについてしっかりと取り組んでいただければありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、総合戦略についてですが、これは町長にお答えを願いたいと思います。

緊急を要する人口問題についてですが、総合戦略では、より実効性の高い人口減少対策を、全町体制による総合的・横断的な施策の推進を掲げておられます。移住、定住、子育て、雇用促進などを推進するために、これは仮称ですが、それこそ「人口対策課」、こういったものを設置して、しっかりとした朝日町づくりをしていかなければならないと思いますが、町長のお考えをお聞かせください。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

笹原町長。

町長（笹原靖直君） 人口対策課という、全てそういったもろもろの事業に取り組んでいけばどうかということではありますが、それとは別として、来年度に向けて、いろんな議員の皆様も提言等があるわけなのですが、より実効性のある形をつくっていかねばならないのかなということで、今模索をしている、検討をしているさなかであります。大きな市と違って限られた職員の中で横断的な形の中でどういう形が取り組みやすいのかなというふうに、今、構想中であります。

そういった中で、今言われたことも1つの提案ではありますが、そういったことも踏まえながら進んでまいりたいというふうに思っておりますので、課の新設においては、新年度に何らかの手を打っていきたいというふうに思っておりますので、ご理解を賜りたいと思いません。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） 各課にわたる施策になるかと思いますが、やはり横断的にやる場合、そしてまた5年間でしっかりとした計画を立てていくときには、こういったしっかりとしたものを持ってやっていくことも大切ではないかと思imasるので、また前向きに検討をお願いしたいと思います。

次、朝日町再生会議についてであります。朝日町には大変多くの資源があるわけです。先ほども6次産業化について述べられておりました。海、山、川、農地、すなわち農林水産業というのは、朝日町では1次産業どまりではないかなと思っております。

そうした中で、町長が推し進めてこられましたふるさと納税というのは、非常に大きな成果を上げているかと思っております。今や800万、1,000万に近い金額になっていると聞いております。これは、まさしく1次産業の方々の品物を、寄附をしていただいた方に送っているわけです。まさに1次産業を育てている1つであります。そしてまた、送る作業は、私はもう既に、販売といいますか、3次産業につながっているのではないかなと思っております。

そこでもう1つ、2次産業、加工ですね。そういった農林水産から出てくる品物を、人を使っていかに6次産業に育てていくか。まさに今1,000万近いものを1億ぐらいに持っていき気持ちでやっていただければ、自然とできるものから6次産業化ができるのではないかなと思っておりますが、そのへんの考え方をよろしく願いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

笹原町長。

町長（笹原靖直君） 今ほどあったふるさと納税、新年度当初予算では年間300万というところではありますが、きのう現在で962万7,000円という、恐らく1,000万は行くんだろうなというふうに、先月の段階では1,000万に行けばうれしいなというふうに思っていたのですが、まさしく今T P Pの問題もありますが、私自身、ぜひお米等々何か町のオリジナルな施策で支援できないかという、そういった形の中でリピーターを増やせないかということが、効果があったのではないかなというふうに思っています。

そういった中では、もうふるさと納税の大方が海産物やお米でありますから、ぜひこれを、今西岡議員の指摘がありましたように、大ざっぱに半分は町に残るわけありますから、今お米のリピーターも増やしたいのですが、それを今度いかに、どのようにシフトしていくかということだというふうに思っていますし、それによって雇用が生まれることが、まさしく私の思いのふるさと納税の1つではなかったかなというふうに思っているわけあります。

そういったことを踏まえながら、今また担当課とともに検討してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） ありがとうございます。

ぜひとも今言われました納税、寄附だけでなく、一番大事なのはリピーター。「おいしかったよ。また送ってください」というような方法をとっていくことが大切であります。そのためには人が必要です。しっかりそういった、「どうでしたか」と聞くようなところ、役場の職員だけではとにかくできないと私は思う。やはりきちっとしたものを設けながら、それに進んでいただければ、おのずからいろんなものが6次産業化できるのではないかなと思っておりますので、積極的に推進をしていただければと思っております。

それから、再生会議からは、泊駅、越中宮崎駅及び駅周辺の魅力アップということが出ております。私も以前から言っておりますが、泊駅は「あいのトキめき駅」、そしてまた越中宮崎駅は「ヒスイ海岸駅」というような、仮称ですが、これを有効活用する必要があると思っております。

そのためには、やはり商標登録をしていただきたい。ロゴマークなりいろんなものをつくって、これをこれからでき上がってくる商品ですね、朝日町の産品に活用できるような方法をとっていただきたい。

先般、教育長にどうやればいいんだということを聞きましたら、民間でもできるし、それから役場でもできるということであります。大したお金は要りません。きちっとしたロゴをつくっているような商品に使えるような方法、そしてこの名前が、名称が、ほかの方が使えるようにやっていただきたいと思っております。

そしてまた、この名前をいかに有効に活用するか。例えば越中宮崎駅においては、先般、ヒスイの原石を置くのは云々かんぬんという話もありましたが、私はそうではないと思っております。観光には、自然を活用した観光とつくられた観光があります。まさに、こういった名称を使う場合には、つくられた観光、やはり、例えば越中宮崎駅には、ヒスイの勾玉を形取ったモニュメントとか、5トンか10トンあるようなヒスイの原石をどかんと置いて、それにさわると子どもができるとか、幸せになれるとか、そういったものをしていかなければならない。もちろん、あいのトキめき駅「泊駅」においては、すぐに結婚できるとか、きちっとした写真撮影ができるようなモニュメントをつくっていくことも大切かと思っております。

ます。

皆さんもご存じかと思いますが、以前、幸福駅というのがありました。そういったところでは、結婚された方とか、切符ですね、これを買いに来るとか、そういったことで非常に効果があったわけであります。柳の下にドジョウは2匹いないかもしれませんが、積極的にこういったことをやっていかないと、町は活性化していきません。前向きな検討をお願いしたいと思っておりますが、そのへんの考え方をよろしく願いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

住吉商工観光課長。

商工観光課長（住吉雅人君） 今ほどヒスイ海岸駅、あるいはあいのトキめき駅ですか、その商標登録ということでございます。

ご存じのとおり、商標登録というのは特許庁に申請書を出して登録を得られればよろしいわけなのですが、その中で、商品登録をすればどうなるかという話になるかと思えます。また、この商品登録につきましては、誰でもが申請できると。これは早い者勝ちということになるかと思えます。当然、登録されれば、ブランド化につながっていくものかという気もします。

こちらへんは、どういう利用の仕方、活用の仕方によって誰が登録するかということになるかとも思いますので、今後、少し研究・検討は必要かなという気持ちを持っています。

以上でございます。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） 朝日町には商標登録をしたものがあります。それはビーチボールであります。今や、最初は3,000個売するのにどうしようかと思っていた物が、その何十倍になっております。ほかのところはやらない先にやっていただきたいということを申し上げて、お願いをしておきます。

次に、町有公共施設の有効活用ですが、公共施設のあり方検討委員会で鋭意検討しておられると思っております。この全員協議会でもまた出てくるような感じでありますので細かいことは申しませんが、まいぶんKANがありますけれども、これをやはりなないろKANと合体といいますか、をして、まいぶんKANはまいぶんKANでまた活用する方法があるかと思っておりますが、そのへんを町はどう考えておられるかお聞かせください。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

笹原町長。

町長（笹原靖直君） 今の件につきましても、議員時代から、西岡議員もですが、私もいろいろ委員会等で話をしました。実はそういった中で、教育委員会は教育委員会で県のほうへ問い合わせ、そしてどのような形があるのかということは今検討しております。そういった相乗効果ができないかということもありますし、新年度に向けてもあるものですから、今そこあたりは前向きな中で検討させていただいておりますので、方向性を見出したときには、また議員の皆様方に報告、相談をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） よろしくお願いをいたします。

五差路の複合施設の運営についてですが、先ほど商工会を中心として特売とか朝市も企画をしているということでありますので、ちょっと安心をいたしております。

やはり見ていますと、イベントとかいろんな企画をしないと、人が来ません。それはそれとして、今シルバー人材センターのほうで買い物支援をやっております、車を使って。このへん、運転手等々についてはシルバー人材センターの方を使われても結構かと思いますが、物ですね、物。今大阪屋から持っていつているわけですが、ある物、今の買い物支援のほうにある品物ですね。パンとかいろんな物があると思うのですが、それを何とか使ってもらえるようなことはできないものですか。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

小杉企画政策室長。

企画政策室長（小杉嘉博君） 今現在行っております、いわゆる移動販売車につきましては、各、笹川、境等、泊一部も含めて皆さんに好評を得ているところであります。

今議員のご提案がありましたように、買い物支援施設の品物は、それを使って活性化につながるというのは非常にいい案だと思っています。例えばあそこで非常に人気商品である豆腐とかパンとかというような物、またお菓子といった物が、特に豆腐とかが朝日町の中の飲食店等で使われるといったような流通等もあれば、五差路の活性化ということにもつながっていくだろうというふうに思っています。

そういう中で、買い物支援という中で移動販売車のほうに、あそこに納入された野菜なり、今お話ししたような豆腐とかといった生鮮食料品、またお魚といった物を積んで、それを各

地区へ移動販売するという事は非常に店の売り上げにもつながりますし、そこに納入される方の生きがいにもつながるということで、それについては今、商工観光課とも話をしておりますので、実現に向けて努めてまいりたいというふうに思っています。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） ありがとうございます。

物が売れば、新鮮な物がどんどん入ってきます。逆効果にならないような方法をしっかりと町とタイアップしながらやっていかなければならないと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

ともかく複合施設については、町としてやるべきこと、例えばいろいろ聞いております。冬対策としてフードをつけなきゃならんとか、これはしっかりと町として対応していかなければならないことかと思っております。

しかしながら、旧態依然のように、町依存の考え方から脱却をしていただきたいと思っております。まさに、「管理あって経営なし、依存あって自立なし」という姿勢から脱却していただいて、やはり商売は商売なりの発想と努力をしていただきたいと思っております。その中に町はいかに協力をしていくかということが大切かと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

次に、泊高校の存続についてですが、高校への朝日町からの支援内容については、今お聞きしましたとおり、泊高校のほうへも投げかけておられるということで、どういったものが出てくるか、今心待ちにするわけですが、これはできるかできないかは別として、泊高校が存続していくためには、やはり生徒が行きたい、そして父兄と申しますか、親が行かせたいと思うような魅力ある学校に育てていく必要があります。学校の価値を高めることが町全体の価値を高めることになるというのも先般の講演で聞いております。しっかりと町としても取り組んでいく必要があるのではなからうかと。

そういった中で、例えば島根県や鹿児島県の離島にある高校では公営塾の開設、公営の塾ですね、そういったものを開設している。そしてまた、うちには特色があるのは、観光ビジネスコースであるのは間違いありません。そのほかに、まだ2クラスあるわけですから、やはり文系、理系等々の特進コースを設けてもいいんじゃないかと思っております。

そこで、しっかりと大学のほうへ行っていただくために、町としてどういった支援をすればいいのかということも、高校と相談をしながらだと思えますけれども、またひとつ検討し

ていただきたいと思っております。

もう1つは、国は観光立国を目指しております。富山県におきましても、観光振興を特別重点施策に挙げているわけではありますが、時代のニーズを先取りしまして、県内では唯一の観光ビジネスコースが設置されているわけでもあります。

そこで、グローバルな世の中になってきたわけですが、やはり中国の方がたくさん来られます。それから、外国からもたくさん来られます。そういった中で、もっと英語とか中国語、そのほかの外国語をしっかりと学んでいただくような特色ある教育を展開してはと思いますが、そのへんの考え方をよろしく願いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

笹原町長。

町長（笹原靖直君） 先般副町長からも答弁の中にあつたとは思のですが、校長、教頭等と、うちここは私と副町長、教育長といろんな議論をさせていただきました。当然やれることはやろうということと、もう1つは今言ったように公営塾、例えば今回、白馬村の白馬高校が28年度から国際観光ビジネスコースということで全国から募集をされる。そういった中では、小谷村と白馬村では塾の先生を新たに村単独で雇用して、そういったところに力を入れていくということでありました。

そういった、今のこの話も校長先生にお話をして、県立でありますけれども、町としてどのような支援ができるかということもお話をしながら、今高校は高校で考えていただけていると思っています。そういった中で、7月ぐらいから、できることはやる。例えば宇奈月中学校のアーチェリーをする子どもたちに、交通の面で、今回議員の皆様方にもご了解を得ましたけれども、リクエスト便を走らせて、利便性を高めるといことも、これも効果だろうという、その話を決めていただきたい。12月に入って教頭先生が宇奈月中学校のほうに、そういったことも踏まえて、泊高校へ来ていただきたいということをPRして説明会に行っておいでになっていることも聞いております。

このように、町もしっかりとそういったお話を交えながら、さまざまな角度から支援できるものはしていこうということだというふうに思っています。先般の、夏に行われた日体大の3カ年続けるという、これもやはりタイムリーにすぐやったというのは、町の姿勢ではないかなというふうに思っています。

もうできることは何でもやるという覚悟で、今現在、高校の存続に向けてはやっておりますし、西岡議員の提案があつたことも既に高校には伝えてありますので、今後必要なものに

関してはしっかりと取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） ありがとうございます。

先ほど言いましたように、生徒が行きたいという学校ですね。これは親御さんとちょっと違うと思うんですね。やはり、私もあんまり勉強は好きでなかったわけですが、やはり部活、いろんなのがあります。泊高校はアーチェリーが非常にいいわけでありますが、そのほか、以前であればバスケットとかいろんなものがありました。そういった体育部、そしてまた、ほかの文化部、こういったところは、行きたい。勉強はあまり好きではないけれども、そこへ行きたいんだというような学校づくりも大切ではないかと思っております。

そうした中では、やはり強くなっていくためにはそれなりの講師も必要ではないかと思いますが、そういった講師の派遣についても、町として協力、支援をしていく気持ちがあるかどうかお答え願いたいと思います。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

笹原町長。

町長（笹原靖直君） 西岡議員の言われたとおり、私はそういう覚悟ではいます。当然私も、私の選挙公約でありました泊高校の存続に向けてしっかり取り組みたいということでありまして、4月以降も知事に対しての懇談会、本当に、西岡議員にも新田経営管理部長にも会っていただいているんな高校存続に向けてご提言をさせていただいたとおり、機会あるたびに言っておりますし、今月7日の町村会の項目の中でも、町にある1つの高校は残していただきたいということを申し上げてきておるわけでありまして、知事も地域の声にはしっかり応えていきたいということでありまして、まだまだ諸問題はあろうかと思いますが、精力的にそれらをトップセールスとしてしっかりお願いはしているところであります。

先ほど副町長が言ったとおり、年明けには知事と、時間を設けていただきまして、署名の重みというものをしっかり伝えてまいりたいというふうに思っております。そういった中では、今議員が言われたとおり、いろんな角度でできるもの、県立高校と町立とは違うのですが、その垣根を越えて、できるものはやっていきたいという思いであります。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

最後になります、小川のサケの有効利用調査についてですが、参加者は191名。本来であれば10人が1日の調査員として入ることができることになるわけですが、そうすると、30日やれば300人。そうすると、約10名の方があぶれたといいますが、原因は募集期間が短かったということもあったかと思いますが、それ以外に、1日7名とかという日もあるやに聞いております。それで、その募集、いろんな規制があって1日10人になっているかと思いますが、予備の、例えば10人が確実にその日は入る。ところが、きょう、かぜを引いたり、何か家庭の都合で冠婚葬祭等で来られなくなったと。そのときに、速やかに釣りを楽しめるような方法がとれないのかをお聞きしたいと思います。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

坂口農林水産課長。

農林水産課長（坂口弘文君） 実際に32日間の期間を設けましたが、雨で波で1日実施できない日がありました。それと、当初320名を募集をかけましたけれども、実際に応募があったのは239名でございます。その段階で75%の人数でありますので、定員に達していなかった。10名以上になりますと抽せんをするということになっておりましたが、抽せんをしたのは1日だけございました。

今後これらの原因、やはりちょっとことしは初めてということもありましたし、県のほうも県内初の試みということで慎重になっていたこともありまして、そもそもまず定員に達していなかったというところをまず最初に解決をさせていただければなというふうを考えておりました。来年度はもう少しPRに努めて、とにかく毎日10名が少なくとも応募していただけるような、そういう対策をとればと思っております。

その後に、増えたときに、今議員のご提案のありましたことが可能かどうか、これについてはまた県とも協議させていただきたいというふうに思います。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） とにかく募集期間を早目にやっていただきたいと思っております。そして、やはり320名以上になるように、町としても、町というのか、漁協も努力をしていかなければならないと思っております。

しっかりとPRして、それでも29名の方が町内にお泊まりだということであります。それなりの観光振興にもつながったのかなと思っております。これをもうちょっとアピールしていけば、もっともっと広がっていくのかなと思っております。

それから、内水面だけでなく、やはりいろんな、宮崎の浜でもそういったものができるんではないかな。例えばフクラギ釣りとか、前にも、昨年ですか、一昨年、こうやっておられたように、指導するといいますか、そういうことをやりながらでも、その方々にも、例えば宿泊助成をすとかいろんなものにチャレンジをして漁業振興、そしてまた朝日町の活性化になるような方策をとっていかなければならないと思いますが、そのへん、町長のお考えをお願いします。

議長（水野仁士君） 笹原町長。

町長（笹原靖直君） 1つきっかけとして、これも議員からも二、三年前から提案されたことがサケの試験どりができるようになったのも事実であります。もちろんそういった中で、応用編としてそういったところにも、対象に目を向けていくということも非常に大事なことだというふうに思っています。そういった中で、実効性ある形でまた議員の皆さんと相談しながら取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

西岡議員。

6番（西岡良則君） 時間が来ました。

本当にどうもありがとうございました。

[【長崎議員の質問へ移る】](#)

.....

議長（水野仁士君） どうもご苦労さまでした。

以上で代表質問を終了いたします。

この際、暫時休憩をいたします。休憩時間は約10分間とし、午後3時50分から再開をいたします。

（午後 3時40分）

〔休憩中〕

（午後 3時50分）

.....

議長（水野仁士君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

これより町政に対する一般質問を行います。

最初に、長崎智子君。

〔 8 番 長崎智子君 登壇 〕

8 番（長崎智子君） 皆さん、こんにちは。

8 番の長崎です。平成27年第 8 回議会定例会において、議長のお許しをいただき、さきに通告してあります 3 件について質問をいたします。

大変お疲れとは存じますが、よろしく願いいたします。

初めに、笹原町長が就任されましてから、約 1 年半になりました。その間、第 4 次総合計画後期基本計画や過疎地域自立促進計画に基づいた各施策事業、県下の子育て支援事業等を推進してこられました。また、朝日町の再生会議を立ち上げられてから 1 年になります。町長選の公約のもとに大変努力しておられますことに、心より敬意を表します。

今後につきましても、まだまだ朝日町が抱えている課題が山積みしております。そこで平成28年度より始まります第 5 次総合計画の予算組みについて、次の 3 項目について町の考えをお聞かせください。

件名 1、第 5 次総合計画基本構想及び総合戦略についてでございます。

農林水産業の 6 次産業化と農商工等連携についてお伺いいたします。

1、特産品、ブランド化戦略の支援は大いに進められることを希望いたします。さらに、生命の根幹であります食の安全・安心のため、新鮮で安心して食べられる地場産物を提供し、地域で安定して消費できる体制の整備が必要と考えます。

その条件を満たす道の駅を朝日町に誘致することが得策かと考えますが、そのためには町の積極的な支援策が必要です。どうか町長の前向きなお考えをお聞きかせください。

2 番目に、6 次産業化は町民全体で取り組むべきものであり、地方創生に大変有効な政策であると思います。このたび各地区自治振興会で観光 P R ポスターを制作するなど、ふるさと創生の機運が高まっておりますが、地区組織の助成支援や観光と農林水産の加工、販売が強いに連携し効果を上げる支援策が必要ですが、町の考えをお聞かせください。

【答弁：商工観光課長】

【答弁：農林水産課長】

件名1の要旨(2)、観光の基盤強化についてでございます。

町の特性を生かした観光には、ヒスイ海岸及び街なか観光の整備が強調されていますが、町内全域にあります観光の整備とPRが必要であります。朝日町の名称の由来であります朝日岳や山岳資源、里山、農業、漁業等全般にわたる地方創生計画が必要です。それぞれの分野にバランスよく町全体が潤い賑わう創生計画をお願いしますが、いかがお考えでしょうかお聞かせください。

【答弁：商工観光課長】

.....

次に、件名2、農林水産業対策について。

要旨(1)、T P P問題についてでございます。

今、和食が世界遺産になり、日本食が世界中から注目されています。青果店や鮮魚店などの専門店やスーパーには商品や食材があふれんばかりにところ狭しと並べられ、食事を提供する飲食店があちこちで営業しています。また、全国各地で点在する道の駅では、地元の新鮮な農林水産物が来場者の目を楽しませ、賑わいを見せています。

この豊かな和食をつくり出しているのが地元の食材であり、農林水産業に携わって、海、山、川、水田を慈しみ、守り育ててきたたまものでございます。また、幾多の災害からこの美しい風景を守り、活力ある土地を維持してこられたからこそ今日があるのです。

しかし、環太平洋経済連携協定、いわゆるT P P交渉の大筋合意を受け、とりわけ影響が大きいとされる農業分野の対策が急がれるところです。農業は、我が朝日町においても大切な基幹産業であり、農業分野の占める割合が大きいことは明らかであり、T P Pによる自由化は、農家にとっては死活問題であり、最重要問題であると思います。

町長は過日、T P Pに対する県内首長の新聞社のアンケートに答えられ、「どちらかと言うと賛成」と答えられていましたが、そのお考えに至る見解をお聞かせください。

2番目、最も影響が大きいとされる農業分野、とりわけ当町での影響はどのようにお考えでしょうか。

小規模農林水産業の切り捨てにならないか案じております。とりわけ農業は共同作業により成り立っており、大規模農家だけでは環境は維持できません。美しい里山や水田風景などが保たれません。小規模農家等が積極的に地方創生に参画できる政策が必要不可欠ですが、お考えをお聞かせください。

3番目、自由化による朝日町の農地の防衛については、T P Pにより農地の取得も自由化され、朝日町以外の異業種や外資系が参入してくることも考えられます。兼業農家や小規模農家が安心して農業ができるよう、また高齢化等によりやむなく続けられなくなった場合には、信頼できる委託先、方法等のご指導をいただけるJ Aとの連携、農地を集積管理する農地中間管理機構との連携も大切かと考えますが、このことについての考えをお聞かせください。

4番目に、減反政策はT P P対策と深くかかわると考えるが、今後町としてどのようにするべきか、お考えをお聞かせください。

【答弁：町長】

次に、件名3、あさひヒスイ海岸パークゴルフ場の整備についてでございます。

あさひヒスイ海岸パークゴルフ場の開設につきましては、うみひこ、やまひこ、2コース、平成22年10月13日に開催。続いて、平成26年10月25日には、ひすいコース、まがたまコースも増設され、多くの来場者で賑わっています。平成27年の利用状況は、4月から10月31日まで、2万279名の利用があったと聞いております。その間、湧水、雨水により排水が悪くなりましたが、町当局初め工事関係者のおかげで、とてもすばらしいパークゴルフ場になりました。

しかしまた、増設をしたひすいコース、まがたまコースは、排水が悪くなり大会運営ができなくなったため、パークゴルフ協会から町当局に対して、排水の改善整備の要望書が出されたと伺いました。

パークゴルフを愛する町内外の健康増進と親睦を図る貴重な施設です。平成28年度の開場に向けて、ぜひ整備をお願いしたく、町長のお考えをお聞かせください。

加えて施設整備が行われたことにより、全国大会や県大会が開催されると思いますが、参加者の収容施設の整備が必要になってくることとは思いますが、朝日町の観光や活性化のためにも前向きにお考えください。この件につきましても、あわせて町のお考えをお聞かせください。

以上、よろしくお願いたします。

【答弁：教育委員会事務局長】

.....

議長（水野仁士君） ただいまの長崎智子君の質問に対する答弁を求めます。

笹原町長。

〔町長 笹原靖直君 登壇〕

町長（笹原靖直君） 長崎智子議員の件名2であります農林水産業対策について、要旨(1)、T P P問題についてお答えいたします。

T P P（環太平洋パートナーシップ）交渉参加12カ国は、去る10月5日に協定の大筋合意に至ったとの発表がありました。今後は参加各国で批准され、すなわち条約を国家が確認する手続がされ、本格的に運用が始まれば、参加国の間で貿易が活発になると予想されます。また、その他のE P A（経済連携協定）などにより、今後貿易の自由化がさらに加速されていくものと考えております。

農業への影響については、今の段階では推測が難しく、内閣に内閣総理大臣を本部長とするT P P総合対策本部が設けられ、安倍首相から、できる限りの総合的な対策を実施していく。さらには、将来にわたって意欲ある農林漁業者の皆様が希望を持って経営に取り組めるよう政府全体で責任を持って万全の国内対策を講じていく旨の表明もありました。

町といたしましては、今後の諸課題に対する国の施策に注視するとともに、朝日町の農業への影響が可能な限り少なくなるよう努力してまいりたいと考えております。

小規模農家に関するご質問もありましたが、農業を営む目的もさまざまなものがあります。ご先祖からの土地を守るためとか、健康やコミュニケーションのため、さらには遠方の都会で暮らす家族に美味しいお米を届けるためなどがあると伺っております。これらは、いずれも立派な考え方であり、農地が持つ多くの機能を維持するためにも重要であると考えており、引き続き農業経営を継続していただきたいと考えております。

農地の利用権設定に関する相談・あっせんにつきましては、これまでもJ Aみな穂や平成26年度から運用が開始された農地中間管理機構を通じて実施しているところであります。今後も関係機関と連携を図りながら、引き続き実施してまいりたいと考えております。

減反政策、いわゆる生産数量目標につきましては、国内需要の減少により主食用米を8万トン減産するよう示される見通しと聞いております。これは、人口の減少や1人当たりの米の消費量の減少によって、国全体の米の消費量が減っていることによるもので、T P Pとの関連はないものと考えております。

私からは以上です。

【質問：件名2に戻る】

議長（水野仁士君） 次に、件名1、第5次総合計画基本構想及び総合戦略についての要旨(1)を、坂口農林水産課長。

〔農林水産課長 坂口弘文君 登壇〕

農林水産課長（坂口弘文君） 件名1、第5次総合計画基本構想及び総合戦略についての要旨(1)、農林水産業の6次産業化と農商工等連携についてにつきまして、私からは6次産業化についてのご質問がありましたので、お答えをいたしたいと思います。

農林水産業の6次産業化は、朝日町再生会議からも提案があり、また朝日町総合戦略にも基本的な施策として、農林漁業の6次産業化と農商工等連携の推進を掲げており、当町の活性化に向けた取り組みの一部として重要な施策と認識をしております。

具体的には、地域特産品の開発・商品化への支援、地域ブランド化や販売戦略の検討、さらには観光、福祉などとの連携による販路の開拓も進め、活性化につなげていかなければならないものと考えております。

以上です。

[【質問：件名1に戻る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 同じく件名1、第5次総合計画基本構想及び総合戦略についての要旨(1)、(2)を、住吉商工観光課長。

〔商工観光課長 住吉雅人君 登壇〕

商工観光課長（住吉雅人君） それでは、私のほうから、件名1、要旨(1)の農林水産業の6次産業化と農商工等連携についてお答えさせていただきます。

ご質問の、地域産物の提供施設としての道の駅の誘致についてであります。町では現在五差路周辺複合施設「Cross Five」を核として、商工会やまめなけ市場、また泊2区自治振興会によるイベント等が開催され、市街地エリアに賑わいが創出されるなど、官民挙げて活性化に取り組んできているところであります。

当施設は地元農産物や加工品等の地場産品の販売も行っており、現時点において道の駅の誘致については考えていないところでございますが、民間主導等によりまず道の駅の誘致等のお話があれば、町としてどのように協力していけるのかということを検討してまいりたいと考えております。

次に、要旨(2)の観光の基盤強化についてお答えいたします。

当町の豊かな自然や歴史文化、食と人柄は、県内外に対して誇ることができる大切な地域資源であり、多くの人を町に呼び込むことができる魅力ある観光素材であります。

朝日町総合戦略に位置づけております施策につきましては、平成28年度からスタートする第5次朝日町総合計画に盛り込むとともに、向こう5年間に於いて集中して取り組みたい施策を示したものでございます。

特にヒスイ海岸や舟川桜並木の景観は、富山県を代表する風物詩として県内外より脚光を浴びている一方、せっかくお越しいただいても、来訪者のニーズに十分に応えることができず、何よりも地元への経済的効果がまだまだ低い状態にありますことから、議員もご承知のとおりかと思いますが、どちらの素材も積極的に対策を施すことで、朝日町にとってまだまだ可能性をもたらす素材であることから、地域と連携し、集中して取り組むべき喫緊の課題であると考えております。

当町のありのままの自然や暮らし、農林漁業を楽しむ体験型観光のPR、さらには町の玄関口である駅を拠点とした賑わい創出など、さまざまな分野や切り口で町をPRすることが、人を町に呼び込み、経済効果を高める観光における行政の役割であると認識しております。

先般、各自治振興会さんで作成されましたポスターにつきましても、自慢の自然や歴史、文化等、まさに町の誇れる魅力であり、引き続き地域の皆さんと連携を図りながら、基盤強

化に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

[【質問：件名1に戻る】](#)

.....

議長（水野仁士君） 次に、件名3、あさひヒスイ海岸パークゴルフ場の整備についてを、宇田教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 宇田速雄君 登壇〕

教育委員会事務局長（宇田速雄君） 一般質問、長崎智子議員の件名3、あさひヒスイ海岸パークゴルフ場の整備についてお答えいたします。

あさひヒスイ海岸パークゴルフ場につきましては、平成22年10月にオープン以来、昨年6月には増設したひすい・まがたまコースも完成し、養生期間を経て、10月から利用をいただいております。町内外の方から好評を得ており、利用者も増加しております。

ご質問のありました排水の改善整備につきましては、町パークゴルフ協会からの要望もあり、管理運営をしております朝日町文化・体育振興公社の職員、芝管理の専門業者とともに現地を確認しております。

コースの一部に水がたまっている状況につきましては、昨年から検討し、専門業者とも相談してきたところでありますが、増設したコースの特徴として、コースに起伏をつくり難易度を上げていることから、雨の日等はどうしても低いところができ、そのような状況になっております。芝生の生育状態には問題はないものの、水の引かない状態が長時間続くことでプレーにも支障を来しているとのこと指摘もあることから、排水設備の増設等、改善に向けた必要な措置を図っていきたいと考えております。

また、県大会等における参加者の収容施設につきましては、その利用頻度を考慮いたしますと、当面は仮設のもので対応したいと考えております。

今後とも利用者の方々等に、より愛される施設を目指して努力してまいりたいと考えております。

以上です。

【質問：件名3に戻る】

.....

議長（水野仁士君） 長崎議員、ただいまの答弁でよろしいですか。

長崎議員。

8番（長崎智子君） 再質問を二、三させていただきます。

答弁、ありがとうございました。さきに通告してありましたので、答弁はたくさんいただきまして、本当にありがとうございます。

再質問は後先になると思いますけど、ＴＰＰ問題について町長のお考えを聞いたわけですが、今国の方針を言われたように私は感じましたが、朝日町とすれば、今国の方針となれば、農業関係と関係ないと言われますが、やはりＴＰＰは農業問題が一番問題になってくると思いますので質問いたしますが、今国では法人化とか大規模化を目指しておられるわけで、でも朝日町ではそういう大規模化ばかりを言っておってもどうしようもないので、やはり今まで農業に携わってこられました、高齢化社会を迎えた方々が今現在生きがいも持って作業しておられるわけでございます。それで、その所有者の方々に対してやはり、第５次総合計画に小規模農家の方々の支援策を考えておられないでしょうか。ちょっと、あればお考えをお聞かせください。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

坂口農林水産課長。

農林水産課長（坂口弘文君） 今ＴＰＰの問題に絡めて小規模農家の皆様のご支援という話がありましたけれども、兼業農家と専業農家、大きく分けて二とおりございますが、ＴＰＰの影響があるとすれば、一番大きいのは専業農家でございます。

それで、ＴＰＰで影響がないように、国のほうは、いわゆる集約化とか生産性の向上でありますとか、あるいは担い手の育成確保でありますとか、新たな農業の方策を支援してまいるといふふうに言っております。一方で、兼業農家の方々につきましては、先ほどの答弁にもありましたように、いろんな目的、目標を持っておられまして、その農業への取り組み方というのは、非常に大切なものであると考えております。

今後ともそのような農業の目的、全てが生産といたしますか、生産過程といたしますか、プロの農家ではない兼業農家の方々であっても、農地を守るというのは非常に町としても大切なものであるといふふうに考えておりますので、そういう観点からまたご支援をしてみたいといふふうに考えております。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

長崎議員。

8番（長崎智子君） ありがとうございます。

TPP問題については、まだまだこれからの問題だと思いますので、これで終わりますが、件名1の要旨(2)の観光の基盤強化についての観光化の問題なのですが、先ほど来五差路のこととかいろいろを言われましたけど、私は先ほども質問しておりましたけど、やはりこの平成27年度から31年度までの5年間、総合戦略及び平成28年度から37年度まで10カ年の基本計画というのは本当に重大な、町にとっては計画だと思いますので、今、朝日町とすれば、先ほども言いましたが、ヒスイ海岸、街なか観光整備がやはり強調されていると住民からの声をちょっと耳にしたのですが、朝日町にはやはり朝日岳とか山岳資源、いろいろ農業、漁業と自然豊かな町です。

再度伺いますけど、片落ちの行政になっているのではないかと思うわけでございます。これではやっぱり町が衰退していくのではと懸念されますけど、全地区を対象とした計画をお願いしたので、当町の考え、再度お聞かせいただきたいと思います。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

住吉商工観光課長。

商工観光課長（住吉雅人君） 今ほど私がお答えした答弁につきましては、総合戦略の中の5カ年間に集中してやっていきたいというものを述べさせていただきました。ただ、朝日町につきましては、海拔0メートルのヒスイ海岸から3,000メートル級の朝日・白馬岳周辺等とございます。まことに自然豊かな風光明媚な町であると私も思っております。

その中で、例えば来年8月11日ですか、「山の日」が制定されます。当然、その山の日の制定に合わせて1つのイベントを打つというのも考えております。そのヒスイ海岸なり舟川桜並木のみじゃなくて、ほかのことも各地区でイベントを行っております。たら汁祭り、さゝ郷のお祭り、また境の関所まつりですね、そういうのを各地区でやっております。そういうのを合わせて当然やってまいります。その中で集中してやりたいという2つを挙げさせていただいたわけでございます。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

長崎議員。

8番（長崎智子君） どうもありがとうございます。

よろしく願いいたします。

それでは、あさひヒスイ海岸パークゴルフ場の件についてお願いいたします。

先ほど答弁いただきましたけど、再質問をお願いします。

あさひヒスイ海岸パークゴルフ場については、私は、平成22年度から今日まで、湧水、雨水の排水について再度にわたって、現場の工事関係者及び町当局の話をもとに うみひこ・やまひこのコースが本当にすばらしいコースになっております。でも、つかぬ間、やはり増設したひすい・まがたまコースについては排水が悪いのでゲームを楽しむことができないとパークゴルフ協会からも再度そういう、聞いております。

再度伺いますけど、町担当者とコースの湧水、雨水の排水について設計者や工事の請負業者との話し合いがなされておりますか、今現在。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

宇田教育委員会事務局長。

教育委員会事務局長（宇田速雄君） 先ほど答弁でお答えしましたように、新しいひすい・まがたまコース、これにつきましては、面積的に少し小さいということもありまして、難易度を上げるために起伏が多くとってあるという事情もございます。そういった点で、排水が悪くなっているところも確かにございます。ただ、排水が悪いといいましても、芝の根が腐るほどの状態ではないということでございます。

先ほど答弁にも申しましたように、プレーで支障が出るというようなご指摘もありますので、今暗渠排水などの増設、そういった排水設備の増設を考えているところでございます。

以上です。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

長崎議員。

8番（長崎智子君） 前向きなことを考えておられるように伺ったのですが、このコース、平成26年の10月25日に開場した。さきに戻るわけなのですが、完成後の引き渡し年月日はいつごろだったんでしょうかね。去年の10月25日に開場になっていますから、その前に引き継ぎは終わっておると思いますが、年月日をちょっと聞きたいのですけど。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

宇田教育委員会事務局長。

教育委員会事務局長（宇田速雄君） 完成は平成26年6月であります。引き渡しの年月日と今お尋ねでしたが、実は教育委員会の所管になりましたのは、ことしの4月からでございます。ということで、今現在そういった資料をちょっと持ち合わせておりません。後ほどお答えできればと思います。

議長（水野仁士君） 住吉商工観光課長。

商工観光課長（住吉雅人君） 今ほどのご質問ですが、当時建設課におりまして、今の新しいコースのオープンを迎えております。それで、今ほど局長が申したとおり、6月に完成して、その後、その時期に引き渡しを受けていると。ただ、芝の生育等々ありまして、しばらくは施工業者に、また芝管理の業者に芝生の管理をみていただいたという経緯がございます。議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

長崎議員。

8番（長崎智子君） ありがとうございます。

そうすると、6月から10月ですね。その間に、その引き渡しの前に現場の検査、芝張りとか排水の位置についての特記仕様書についての法的なことは守られていたと思いますが、今1年経過してまた排水が悪くなったということは、一体その検査は何だったのかなと思っているのですが、間違いなく検査しられたんですよね、受けられたんですよね。質問、お願いします。

議長（水野仁士君） ただいまの再質問に対して答弁を求めます。

住吉商工観光課長。

商工観光課長（住吉雅人君） 工事が終わりましたら、当然町の検査員を立てまして完成検査を行っております。ただ、先ほども水がたまるというお話があったかと思いますが、私、昨年もたしか議員さんにお答えしておるかと思うのですが、起伏がまずあるということ、難易度を上げているということ、当然水は高いところから低いところに流れますので、低いところに大雨のときはたまってしまうという結果になります。ただ、水がたまってもすぐに引かないということについては、そのときそのときで暗渠等々を入れて改修はしていつていると思います。検査については終わっています。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

長崎議員。

8番（長崎智子君） すみません、ありがとうございます。

今せっかく皆さんがお楽しみにしておられたところに、また水がたまって長靴をはいてやるような現場になっていきますと、せっかく工事はしたわ、それではどうしようもない。

すぐその排水を直していただきたいなと思うわけですが、今回のこの工事、私は前のときもこのコース、2コース、うみひこ・やまひこをつくったときも何回となくこの質問をして繰り返してよくなったのですが、また同じようなことをやっておられるということですから、排水の問題は工事を行った業者の責任でないかなと私は思うわけですが、排水につい

での、今後どういうことをしられるかまだわかりませんが、追加予算計上とかになると、町民は許さないと思います。

それで、この件について、誰がどのように直すようにしられるのか、町の考えがありましたらお聞かせください。業者がやるのか、町がやるのか。

議長（水野仁士君） ちょっと長崎議員。先ほど教育委員会事務局長のほうから改善に向けた必要な措置を、排水の設備をとっていくという答弁をあなたは聞かれたはずですけど、まだそのほかに何か……。工事の不具合というようなことでさきの話を聞かれるわけですか。この排水設備の増設、改善に向けた必要な措置では物足りんわけですか。

永井教育長。

教育長（永井孝之君） 長崎議員の今納得できないというお話でありますけれども、私ら教育委員会は4月からこのパークゴルフ場を引き継いだわけですがけれども、先ほど事務局長が申し上げたとおり、この工事に関しては、正式な検査も終わり、引き継ぎも終わっていますので、私たちとすれば、そこはもう正当に、工事には何の瑕疵もなく引き継いだというふうに考えております。

そこで、長崎議員がおっしゃっている水がたまるというのは、先ほどから説明をしておりますけれども、起伏が大きいということで、自然の摂理として水は低いほうにたまるというところがあって、多少ご利用の皆さんにはご不便をおかけしているんだろうというふうに思います。

それは重々こちらのほうでも認識をしておりますので、来年度予算を議員の皆さんに通していただけるならば、それを使って排水を、暗渠をつくって、少しでもご利用の皆さんに利用しやすいようにこちらのほうでは改修をしていきたいというふうに思っていますので、ご理解をいただければなというふうに思います。

以上です。

議長（水野仁士君） ただいまの答弁でよろしいですか。

長崎議員。

8番（長崎智子君） はい、わかりました。

はっきり言っていただきましたので、お願いいたします。

以上、終わります。

議長（水野仁士君） ご苦労さまでした。

以上で本日の一般質問を終了いたします。

残る一般質問は、あす11日、引き続き行います。

以上をもって、本日の日程は全て終了いたしました。

次会の日程

議長（水野仁士君） 次に、次会の日程を申し上げます。

あす11日は、引き続き、町政に対する一般質問を行います。

散会の宣告

議長（水野仁士君） 本日は、これをもって散会いたします。

どうもご苦労さまでした。

（午後 4時31分）